

消費動向指数（CTI）の 2025年基準改定に係る検討について

令和7年10月22日
総務省統計局消費統計課

目次

1. 消費動向指数（CTI）の概要
2. 2025年基準改定について
3. CTIミクロ2025年基準改定について
4. CTIマクロ2025年基準改定について

1. 消費動向指数（CTI）の概要

消費動向指数（CTI）の概要

消費動向をマクロ・ミクロの両面から捉える速報性の高い消費指標：消費動向指数（CTI：Consumption Trend Index）を2018年1月分から毎月公表

世帯消費動向指数 （CTIミクロ）

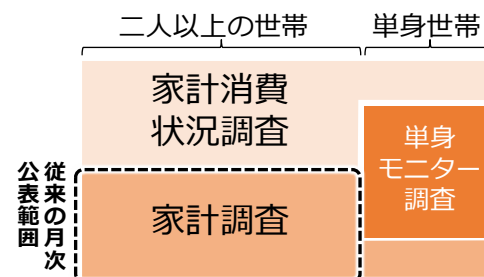
世帯の平均消費支出額（10大費目別、世帯類型別など）の月次動向を示す統計指標

◆ 家計調査（標本規模：二人以上の世帯 約8千、単身世帯 約7百）の結果を、

□ 家計消費単身モニター調査（標本規模：約2千4百）

□ 家計消費状況調査（標本規模：約3万）

の結果等と統計的手法によって補正・補強し、標本規模を擬似的に拡大、推計精度を向上

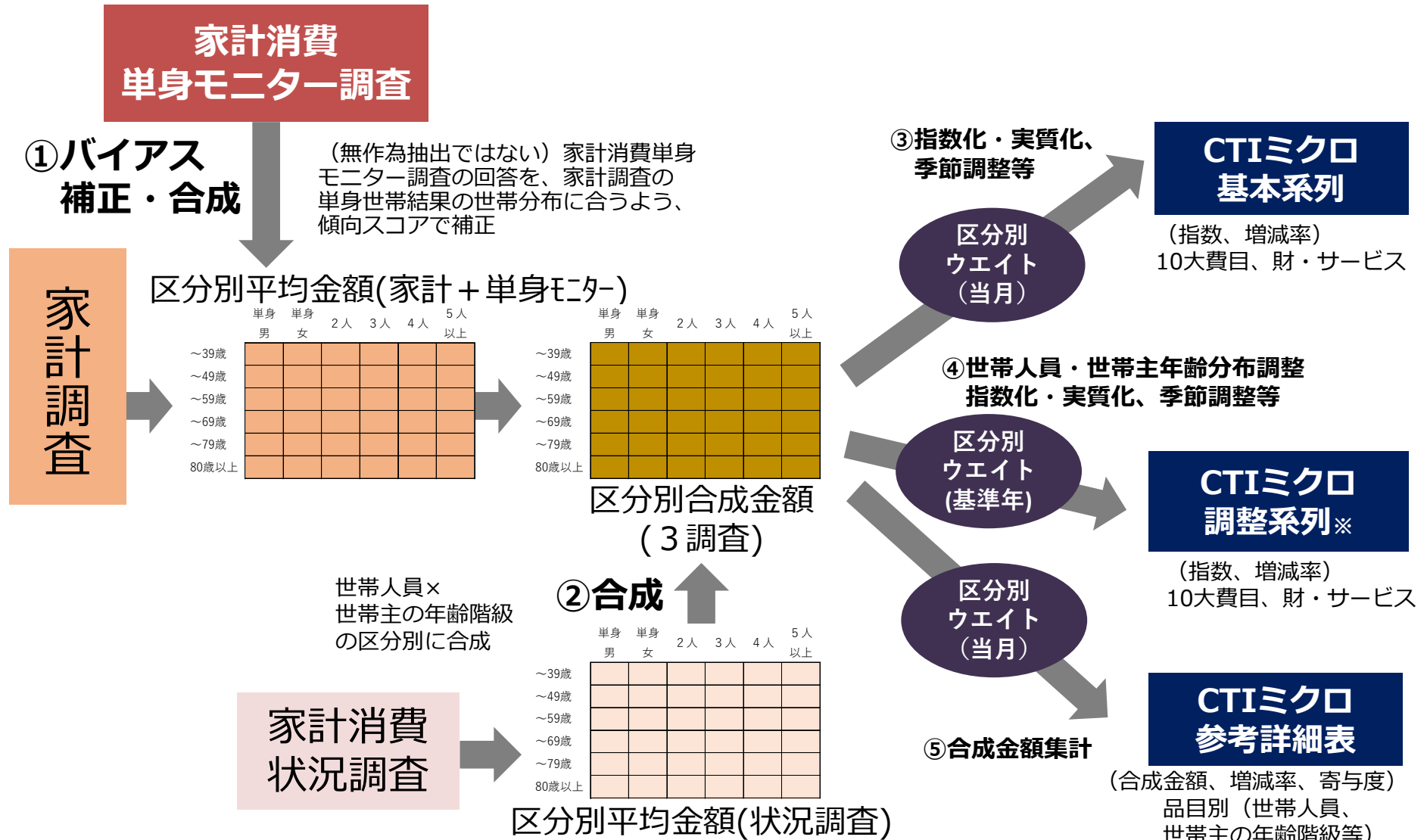


総消費動向指数 （CTIマクロ）

国内経済における個人消費総額の月次動向を示す統計指標

- ◆ GDP統計（家計最終消費支出）をターゲットとして、最新の動向を推測
- ◆ GDP統計の四半期別公表値では観測できない月次の値を時系列回帰モデルによって推計
- ◆ 2022年12月に、ビッグデータ利活用の成果に関する報告書をウェブサイトに掲載

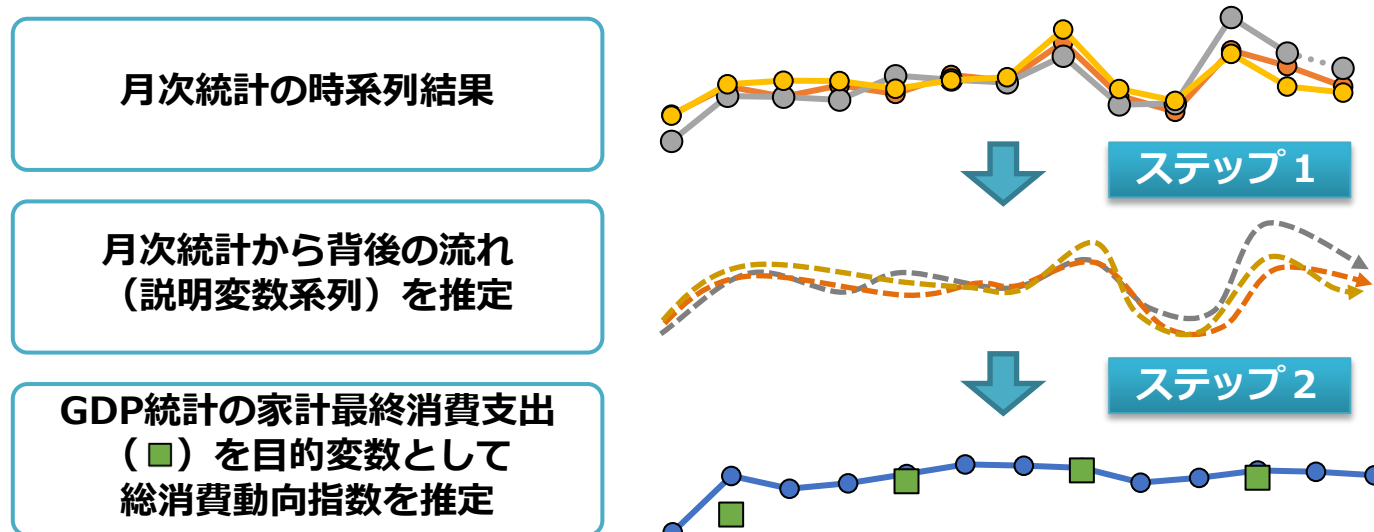
世帯消費動向指数の推定方法の概要



※ 調整系列とは、世帯主の年齢階級の分布と世帯人員の分布を基準年で固定して算出した世帯消費動向指数。世帯構造(年齢や人数など)の変化が消費支出の推移に与える影響を除去した消費動向を示す系列。

総消費動向指数の推定方法（イメージ及び使用統計）

- 総消費動向指数は、四半期別GDPでは観測できない月次のマクロ消費動向を推定。
- 消費に関連する月次統計の「背後の流れ」を説明変数、GDP統計の「家計最終消費支出」を目的変数とした時系列回帰モデルにより推定。



推定に使用する各種統計

	名目		実質	
	統計名	系列名	統計名	系列名
目的変数	GDP統計（名目）	家計最終消費支出（季節調整値）	GDP統計（実質）	家計最終消費支出（季節調整値）
説明変数	世帯消費動向指数（名目）	消費支出（総世帯、原数値）	世帯消費動向指数（実質）	消費支出（総世帯、原数値）
	商業動態統計	小売業計、販売額（原数値）	鉱工業生産指数	消費財（原指数）
	サービス産業動態調査※	サービス産業計、売上高	第3次産業活動指数※	広義対個人サービス（原指数）

※ 公表時期の関係で、他の統計と異なり推定時点の最新月が欠測値となっている。一期先予測を行い、最新月を補完している。

総消費動向指数の推定方法（詳細）

ステップ1：説明変数系列の推定

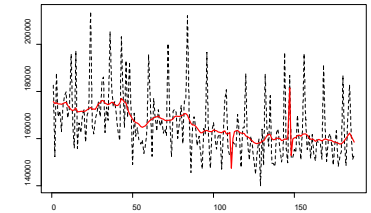
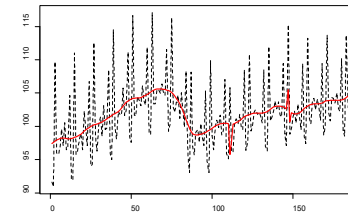
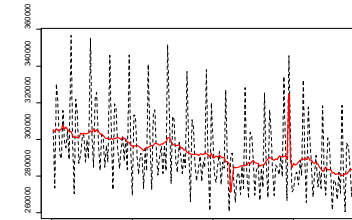
変動要素を加法で表現した季節調整モデルにより
各種統計の時系列データ（原系列）を変動要素別に分解。

$$Y_n^{Original} = T_n + C_n + S_n + \sum_{k=1}^K D_n^k + \varepsilon_n^{Original} \quad (\varepsilon_n^{Original} \sim N(0, \sigma_{Original}^2))$$

$$\left\{ \begin{array}{ll} \text{トレンド: } T_n = 2T_{n-1} - T_{n-2} + \varepsilon_n^T & (\varepsilon_n^T \sim N(0, \sigma_T^2)) \\ \text{サイクル: } C_n = \alpha_1 C_{n-1} + \alpha_2 C_{n-2} + \varepsilon_n^C & (\varepsilon_n^C \sim N(0, \sigma_C^2)) \\ & (-(1 - \alpha_2) < \alpha_1 < 1 - \alpha_2, \quad -1 < \alpha_2 < 1) \\ \text{季節変動: } S_n = -\sum_{k=1}^{11} S_{n-k} + \varepsilon_n^S & (\varepsilon_n^S \sim N(0, \sigma_S^2)) \\ \text{外れ値項: } D_n^k = \beta^k Z_n^k & (k = 1, 2, \dots, K) \end{array} \right.$$

⇒ トレンド(T_n) + サイクル(C_n) + 外れ値項($\sum_{k=1}^K D_n^k$)
を抽出し、説明変数系列(X_n)とする。

$$X_n := T_n + C_n + \sum_{k=1}^K D_n^k$$



ステップ2：時系列回帰モデルによる推定

欠測値を考慮した時系列回帰モデルにより
GDPを目的変数とした月次の消費支出 (y_n) を推定。

⇒ 四半期の観測値(Y_n^{GDP})が月次推定値(y_n)の
直近3か月の和と整合的になる制約を設定。

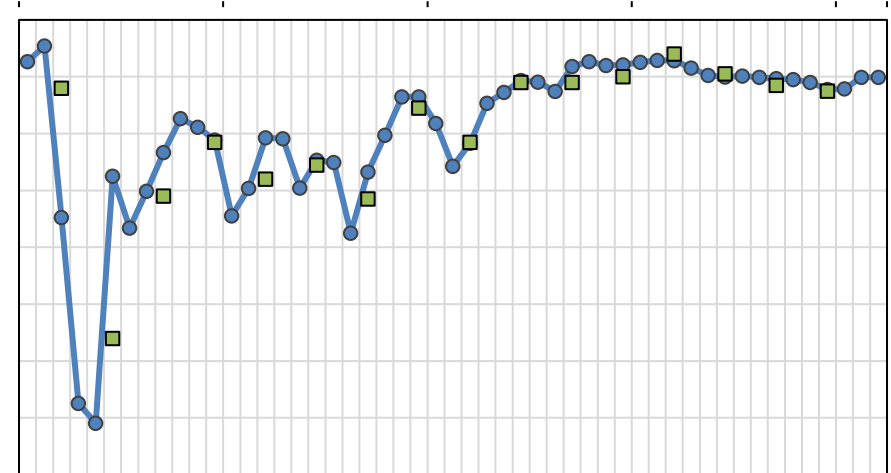
$$y_n = T_n + \sum_{i=1}^3 \beta_n^i X_n^i$$

$$Y_n^{GDP} = y_n + y_{n-1} + y_{n-2} + \varepsilon_n^{GDP} \quad (\varepsilon_n^{GDP} \sim N(0, \sigma_{\varepsilon^{GDP}}^2))$$

$$\left\{ \begin{array}{ll} \text{トレンド: } T_n = 2T_{n-1} - T_{n-2} + \varepsilon_n^T & (\varepsilon_n^T \sim N(0, \sigma_T^2)) \\ \text{時変回帰係数: } \beta_n^i = \beta_{n-1}^i + \varepsilon_n^{\beta^i} & (\varepsilon_n^{\beta^i} \sim N(0, \sigma_{\beta^i}^2)) \end{array} \right.$$

⇒基準年の消費支出総額の平均月額を100とする指数で算出。

目的変数及び説明変数が過去に遡って改定されるため、総消費動向指数も過去に遡って公表ごとに毎月改定される。



2. 2025年基準改定について

(参考) 2020年基準改定における改定事項

<< 世帯消費動向指数 (CTIミクロ) >>

	項目	改定・変更内容	該当期間
1	指数 原数値 (対前年増減率)	・基準年変更(2015年→2020年) ・財・サービス区分の作成開始^{注1} ・合成方法の見直し^{注2} ・接続指数^{注3}の作成 ・CPI改定に伴う実質値の改定 ・対前年増減率作成系列の拡充^{注4}	全期間(2019年以前は、接続指数) (二人以上の世帯:2002年1月～) (総世帯・単身世帯:2017年1月～, 2002年1-3 月期～, 2002年～)
2	指数 季節調整値 (対前月(期)増減率)	・原数値の改定・変更に伴う改定^{注5} ・対前月(期)増減率の作成開始^{注6}	全期間 (二人以上の世帯:2002年1月～) (総世帯・単身世帯:2017年1月～, 2002年1-3 月期～)
3	参考詳細表	・合成金額作成方法の見直し^{注2}	2020年1月～

注1:作成期間は2020年1月分以降とする。これに伴い分類を一部見直したため、10大費目のうち「教育」及び「その他の消費支出」について接続指数は作成しない。

注2:詳細については、「世帯消費動向指数(CTIミクロ)の推定方法(2020年基準)」に掲載する予定

注3:2015年基準の指数を、新旧基準の基準年金額の比を用いて換算したもの

注4:全ての系列について、指数値に対応する対前年増減率を作成する。

注5:「教育」、「その他の消費支出」及び財・サービス区分別結果の季節調整値は、当面作成しない。

注6:財・サービス区分別結果を除く全ての系列について、指数値に対応する対前月(期)増減率を作成する。

<< 総消費動向指数 (CTIマクロ) >>

	項目	改定・変更内容	該当期間
1	指数値	・基準年変更(2015年→2020年)	全期間 (2002年1月～)

2025年基準改定について

- 前回の2020年基準改定での大きな変更は、CTIミクロの合成方法の見直し（家計調査（+家計消費単身モニター調査）と家計消費状況調査の合成方法を、サンプルサイズ比から分散の逆数比に変更等）
 - 今回の2025年基準改定に際しては、CTIについて既に一定の評価があることを踏まえ、推定方法に関しては現行方法から大きな変更は行わない（演算に必要なデータ等は更新）
 - なお、CTIの有用性の向上を図るため、情報の充実など以下を検討
 - 【CTIミクロ】
 - ✓現在、大分類で表章している結果表について、中分類まで公表（前回研究会でのご意見）
 - ✓大分類「その他の消費支出」についても公表
 - 【CTIマクロ】
 - ✓うるう年成分の除去
 - ✓持家の帰属家賃を除く系列の追加公表
- また、CTIミクロ・マクロともに年度の結果も追加公表

2025年基準改定で対応する内容

CTIミクロにおいて以下を対応

- 基準年平均（2025年平均） = 100
- CPI2025年基準適用
- 各種改定
 - 接続指数（2024年までを接続するリンク係数作成）
 - 家計調査（単身モニターを含む）と家計消費状況調査の合成比率改定
 - 季節調整値改定
 - 傾向スコア改定（年次での変更と同等）
 - その他CTIミクロ演算に必要なデータの改定

3. CTIミクロにおける検討

(1) 中分類指数

中分類指数の検討

- 現在10大費目について指数を公表しているが、これを中分類まで公表することを検討。
- データ期間は2020年1月～2025年8月とし、名目・実質それぞれについて指数を算出。現行の10大費目は消費支出全体に対する内訳型指数として小数点以下第4位までの指数値で公表しているため、中分類指数についても、その作り方を踏襲すると以下のようなになる。

内訳で表示

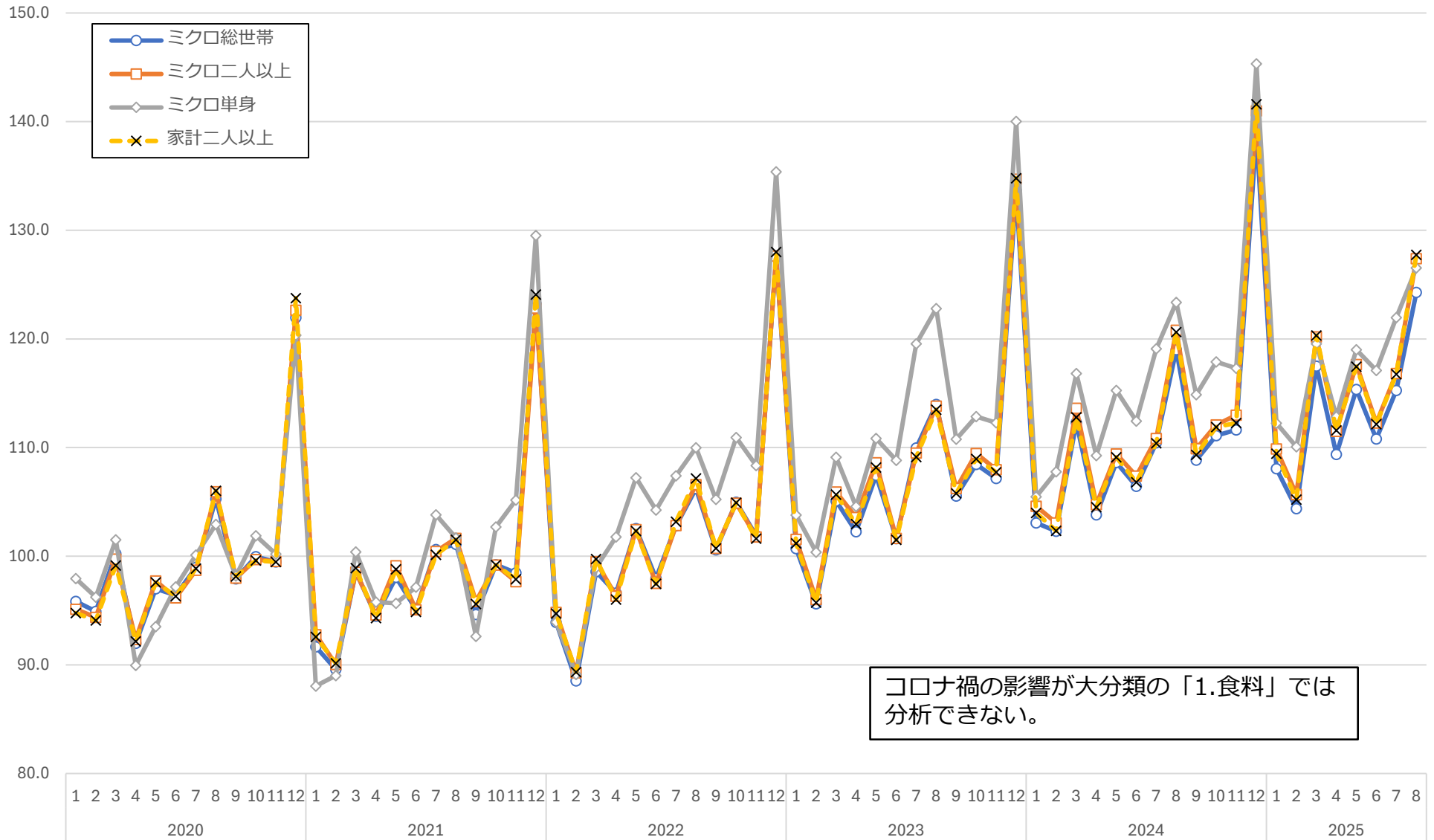
分類	202001	202002	202003	202004	202005	202006	202007	202008	202009	202010	202011	202012
消費支出	102.7029	98.8200	105.0072	95.0979	90.0264	99.1162	95.8171	99.3765	96.8441	102.8343	100.9740	113.3834
食料	25.7665	25.5171	26.9486	24.7274	26.0771	25.9188	26.6054	28.3020	26.3245	26.8721	26.7415	32.7849
穀類	1.8353	2.0093	2.3341	2.3369	2.2551	2.1286	2.1524	2.1230	2.1798	2.2841	2.0476	2.5847
魚介類	1.8466	1.7640	1.9969	1.9501	2.0283	1.9300	1.8627	1.9320	1.8288	1.8925	1.9815	3.4107
肉類	2.2092	2.2261	2.5118	2.6669	2.7862	2.4397	2.4231	2.5589	2.3474	2.4296	2.4799	3.2076
乳卵類	1.1930	1.2511	1.4074	1.4710	1.5041	1.3542	1.3341	1.3546	1.3143	1.3034	1.2502	1.3429
野菜・海藻	2.5400	2.6161	2.9663	3.3075	3.3869	3.1202	2.9981	3.2209	2.9433	3.0186	2.8446	3.2394
果物	0.9456	1.0065	1.0673	1.0097	1.0266	1.0548	1.1475	1.4304	1.2539	1.2096	1.1241	1.4171
油脂・調味料	1.0834	1.1527	1.3030	1.3478	1.3212	1.2700	1.2515	1.2035	1.1757	1.2293	1.3034	1.5786
菓子類	2.2575	2.4413	2.5223	2.0601	2.2140	2.1322	2.2402	2.5122	2.1709	2.2233	2.2640	3.0162
調理食品	3.5993	3.5449	3.6625	3.5098	3.6500	3.5231	3.8712	3.9256	3.6391	3.7439	3.7540	5.0224
飲料	1.4626	1.4598	1.6459	1.5931	1.8155	1.9058	1.8417	2.0980	1.7724	1.6084	1.5359	1.7027
酒類	0.9706	1.0343	1.1668	1.3014	1.3796	1.3510	1.3163	1.4513	1.4050	1.1266	1.2680	1.7543
外食	5.8064	4.9954	4.3426	2.1576	2.6838	3.6915	4.1529	4.4748	4.2790	4.7806	4.8652	4.4849
:												

中分類指数の検討

- 10大費目のみでは困難であった詳細な分析が、中分類指数まで確認することで可能になる。
 - 2020年～2022年のコロナ禍における動き
 - 足元の物価上昇を踏まえた消費の動き など
- 家計調査では振れが大きい中分類について、CTIミクロでは振れが減少。
 - 「2.2.設備修繕・維持」、「7.2.自動車等関係費」、「8.3.補習教育」などの分類（いずれも家計消費状況調査が影響）

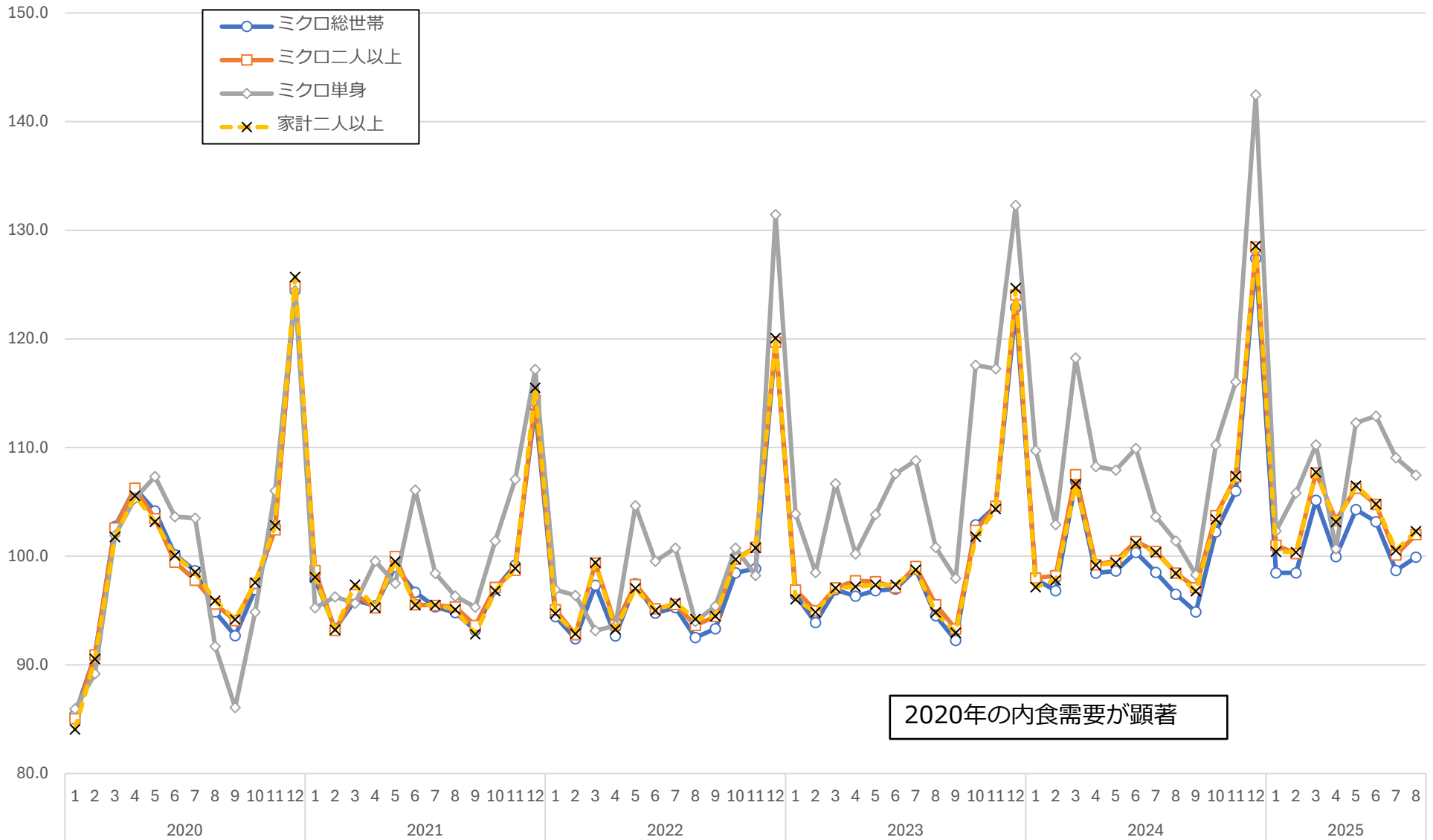
中分類指数 - コロナ禍分析

【名目】 1.食料 (2020年平均 = 100)



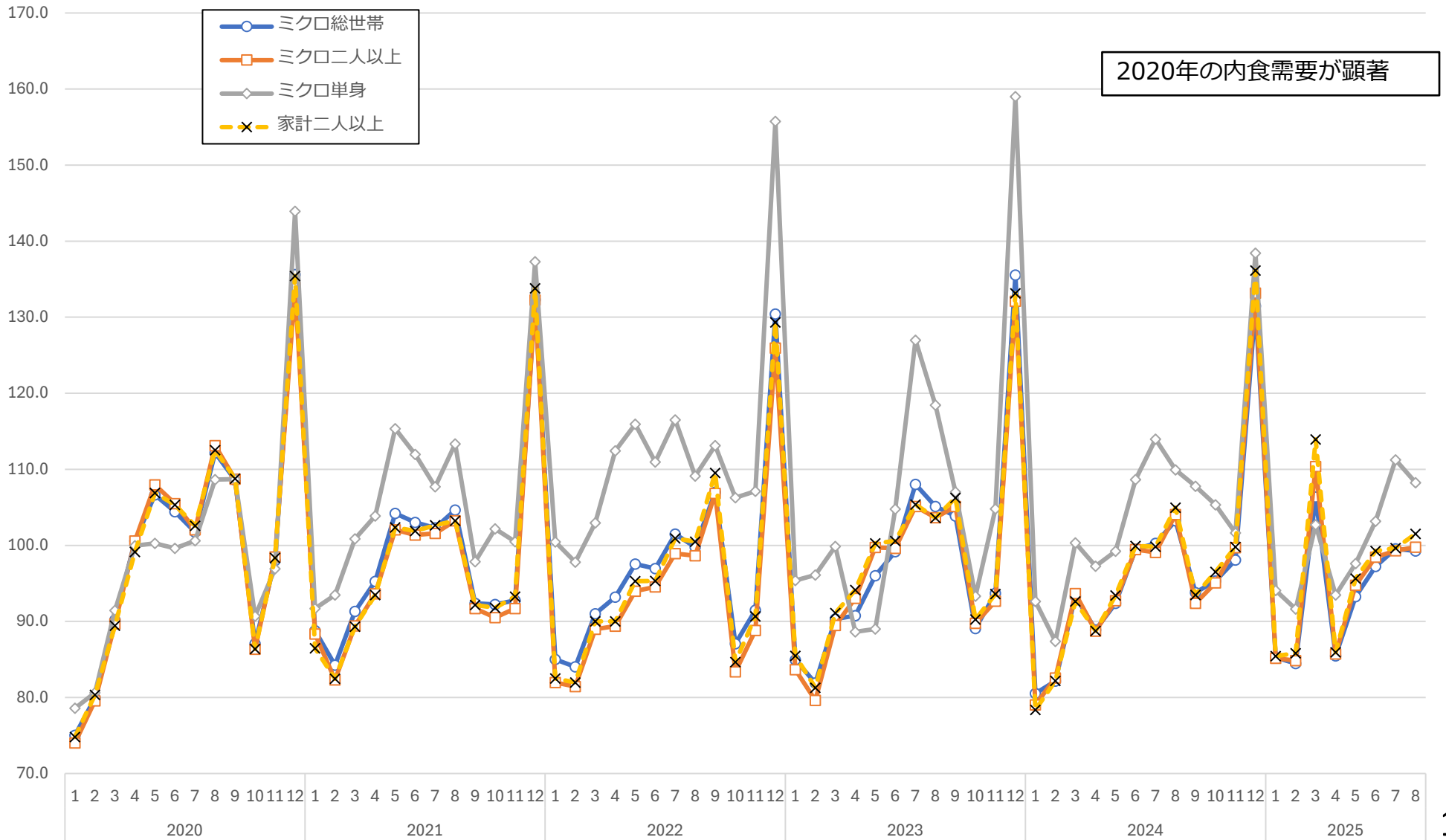
中分類指数 - コロナ禍分析

【名目】 1.7.油脂・調味料（2020年平均＝100）



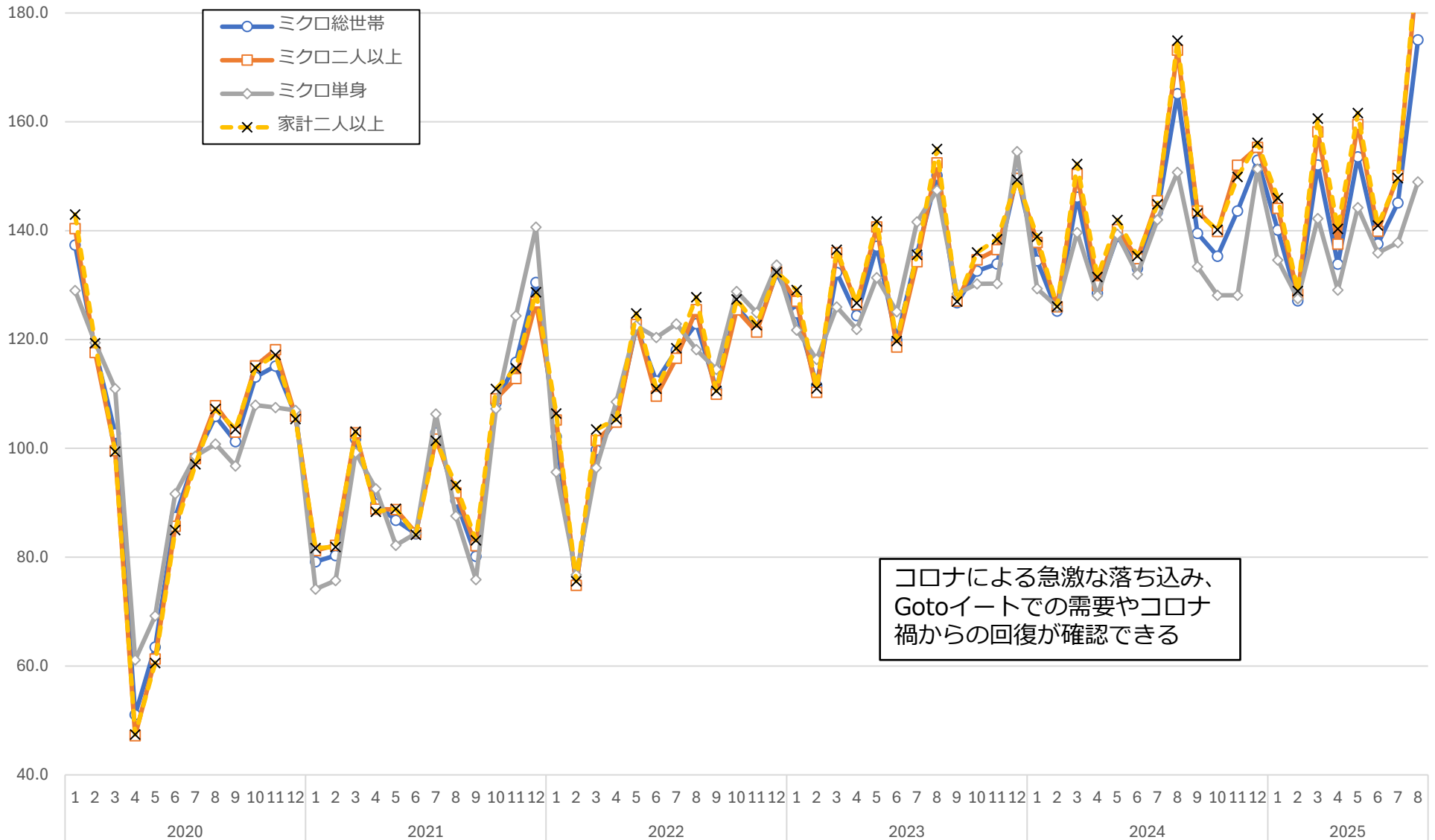
中分類指数 - コロナ禍分析

【名目】 1.11.酒類 (2020年平均 = 100)



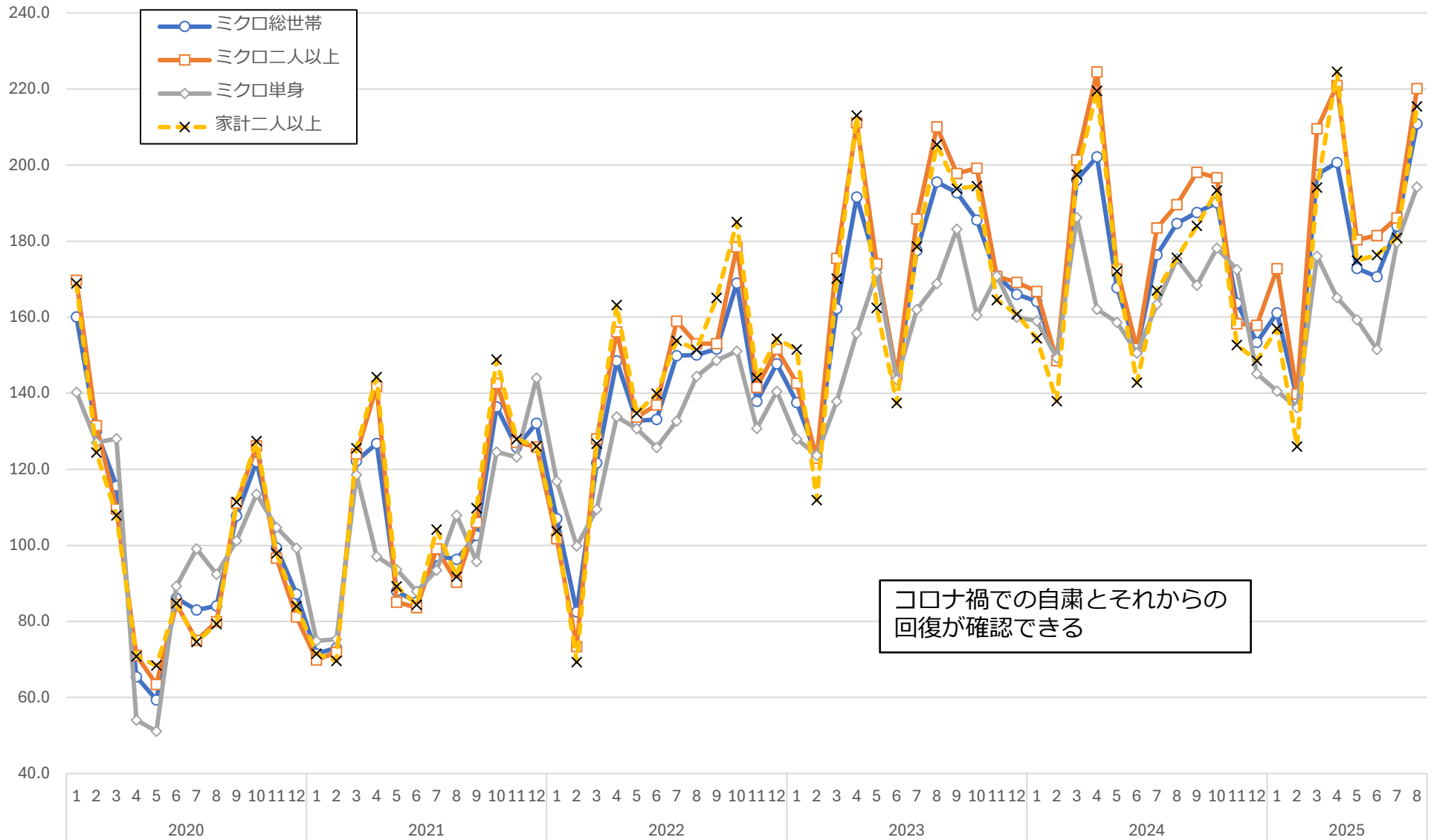
中分類指数 - コロナ禍分析

【名目】 1.12.外食（2020年平均 = 100）



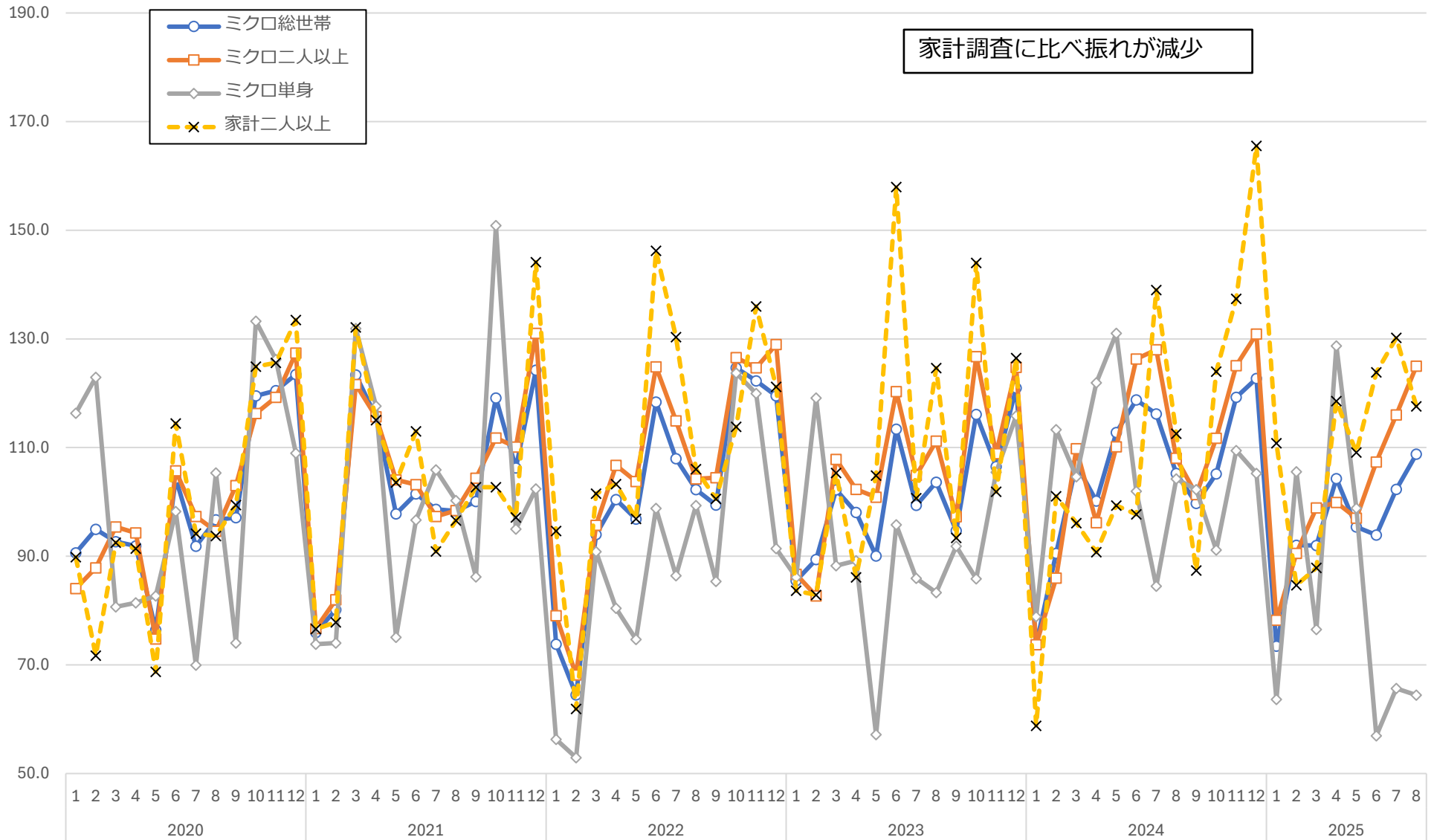
中分類指数 - コロナ禍分析

【名目】 7.1.交通 (2020年平均 = 100)



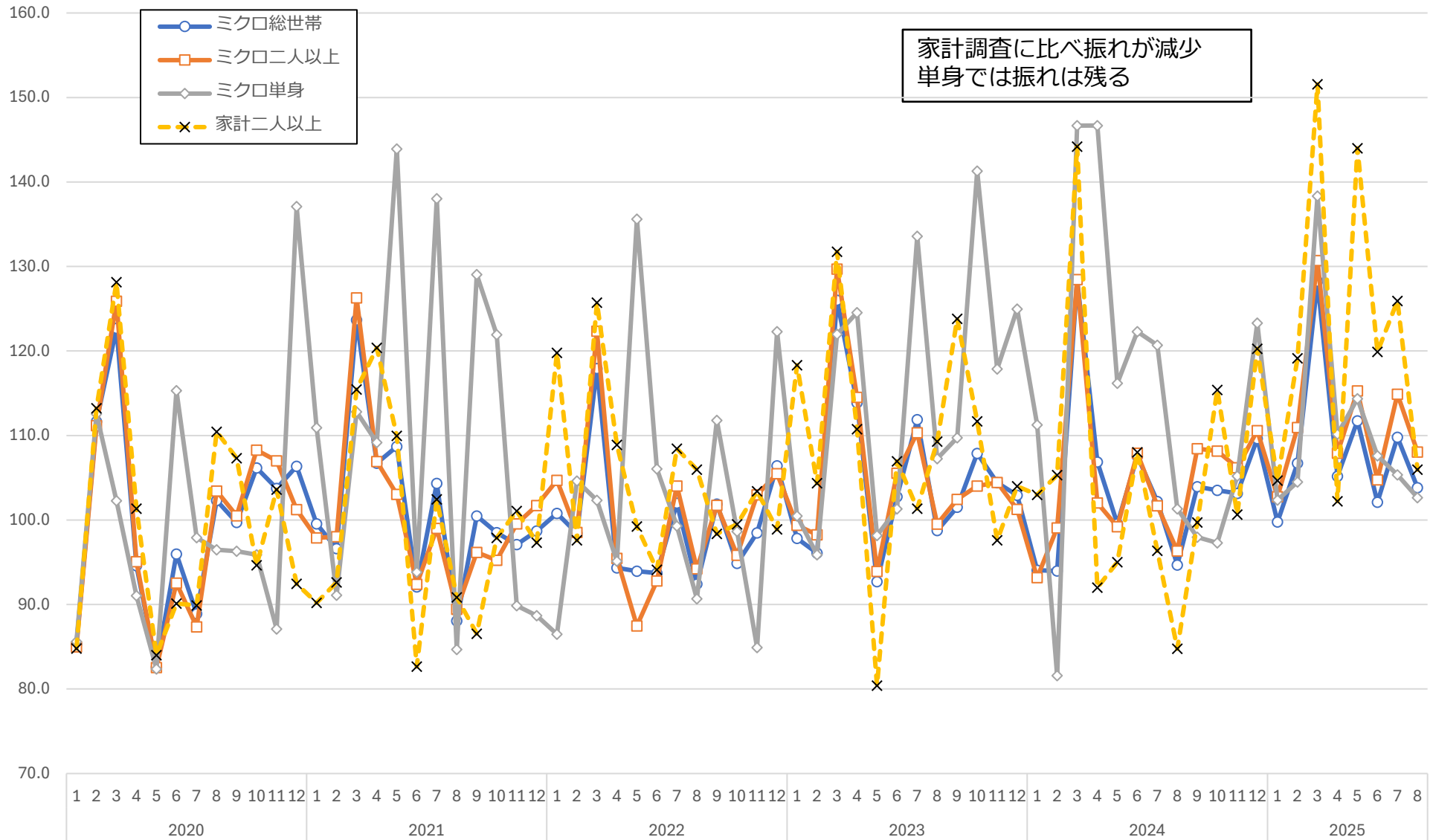
中分類指数 - 振れ減少

【名目】 2.2.設備修繕・維持（2020年平均＝100）



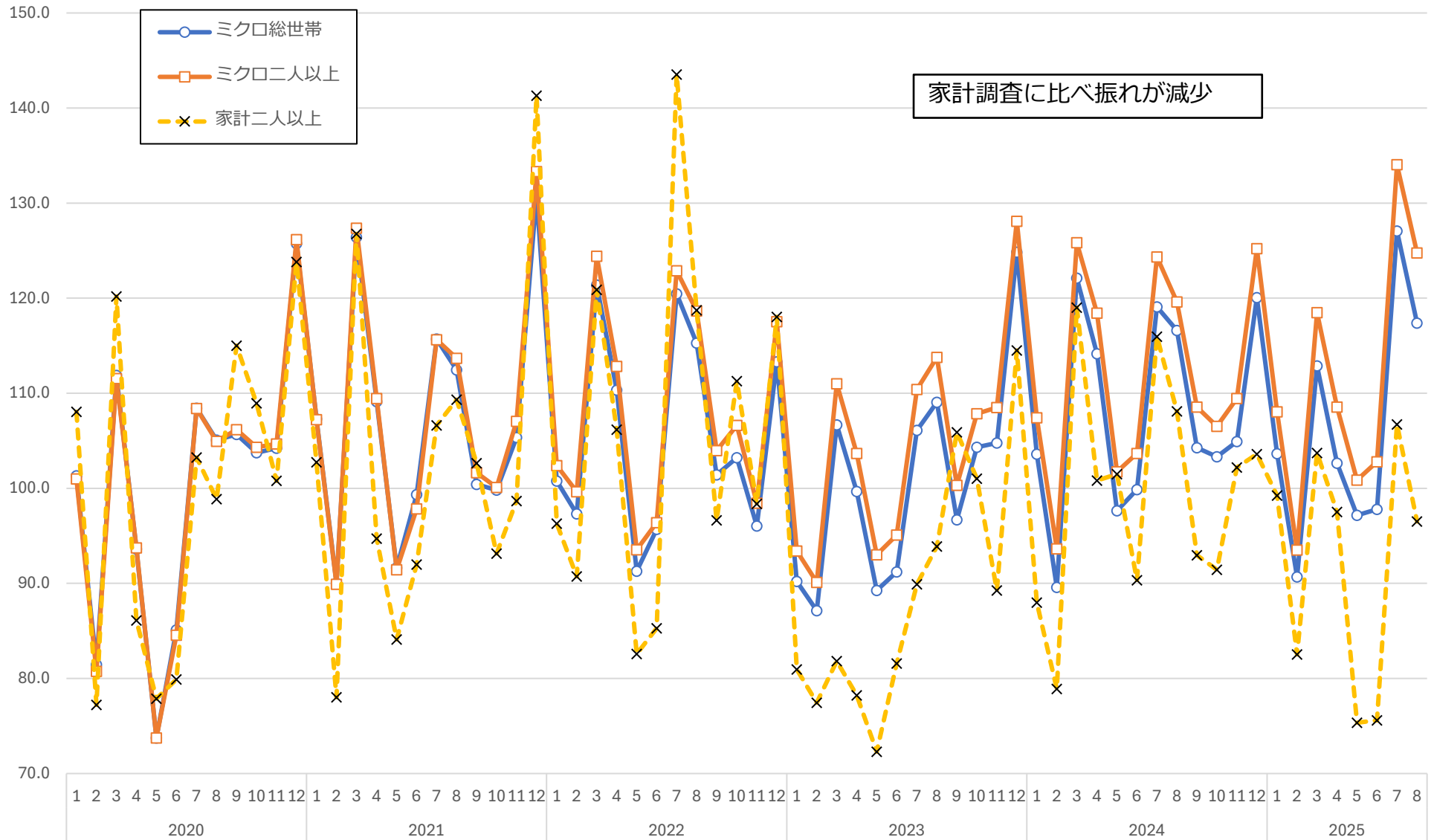
中分類指数 - 振れ減少

【名目】 7.2.自動車等関係費 (2020年平均 = 100)



中分類指数 - 振れ減少

【名目】 8.3.補習教育（2020年平均 = 100）



標準偏差等の比較

●標準偏差、変動係数等

(2020年1月～2025年8月のデータで計算。)

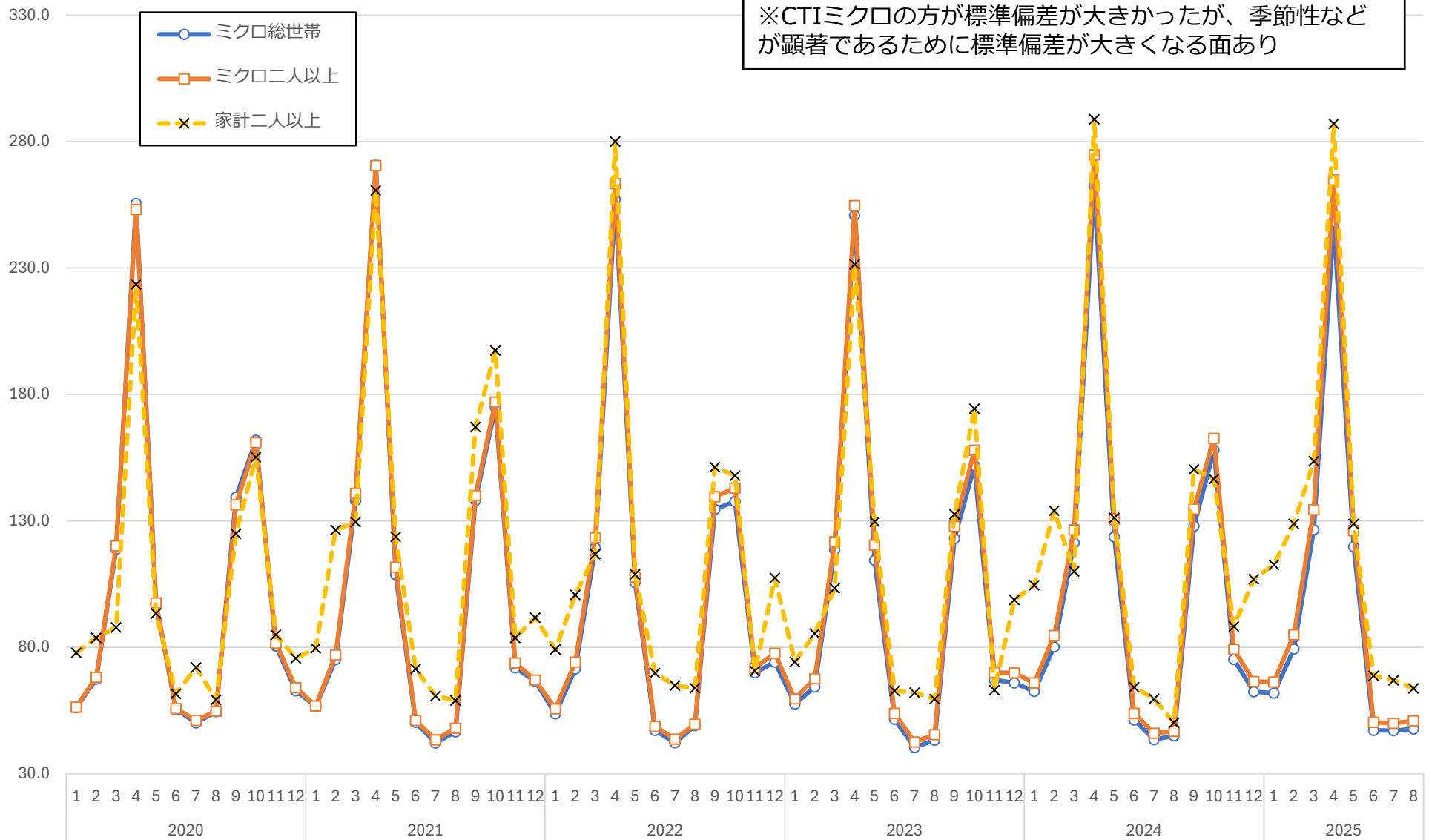
紙幅の都合で一部費目のみ掲載、オレンジ色セル：家計二人以上より大きい)

連番	費目	標準偏差				変動係数(標準偏差÷平均)				差分(当月ー前月)の標準偏差				対数差分の標準偏差			
		CTIミクロ			家計調査	CTIミクロ			家計調査	CTIミクロ			家計調査	CTIミクロ			家計調査
		総世帯	二人以上	単身		総世帯	二人以上	単身		総世帯	二人以上	単身		総世帯	二人以上	単身	
1	消費支出	6.65	7.03	8.35	7.39	0.0641	0.0676	0.0773	0.0705	8.23	8.45	8.50	8.76	0.0778	0.0799	0.0766	0.0821
23	4 家具・家事用品	13.56	13.51	17.45	14.00	0.1380	0.1379	0.1637	0.1420	14.76	14.85	18.06	15.54	0.1494	0.1513	0.1655	0.1574
24	4 1 家庭用耐久財	22.20	22.52	28.09	24.66	0.2308	0.2355	0.2625	0.2528	21.44	21.33	31.30	24.97	0.2178	0.2190	0.2911	0.2552
25	4 2 室内装備・装飾品	29.30	34.55	40.58	29.88	0.2832	0.3368	0.3603	0.2939	37.88	45.58	56.16	36.67	0.3173	0.3637	0.5190	0.3264
26	4 3 寝具類	19.27	19.29	30.68	24.37	0.2045	0.2031	0.3162	0.2660	22.17	22.01	40.23	29.22	0.2425	0.2404	0.4574	0.3073
27	4 4 家事雑貨	11.38	11.69	15.45	11.66	0.1145	0.1179	0.1438	0.1176	15.44	15.92	19.22	15.87	0.1467	0.1516	0.1751	0.1510
28	4 5 家事用消耗品	10.51	10.27	16.57	10.31	0.1043	0.1018	0.1514	0.1023	10.55	10.64	13.25	10.65	0.1070	0.1075	0.1226	0.1078
29	4 6 家事サービス	18.22	18.01	26.16	18.80	0.1867	0.1845	0.2574	0.1912	18.85	18.92	30.40	19.34	0.1947	0.1947	0.3107	0.1978
39	6 保健医療	6.26	6.70	11.17	7.06	0.0606	0.0648	0.1023	0.0684	7.08	7.63	10.85	8.03	0.0684	0.0736	0.0999	0.0778
40	6 1 医薬品	6.47	6.76	9.70	6.39	0.0639	0.0664	0.0930	0.0632	8.62	8.81	11.08	8.39	0.0830	0.0840	0.1057	0.0811
41	6 2 健康保持用摂取品	8.91	9.48	15.91	9.64	0.0930	0.1025	0.1552	0.1034	10.92	11.53	21.01	12.30	0.1132	0.1235	0.2013	0.1295
42	6 3 保健医療用品・器具	8.30	8.25	18.52	8.35	0.0884	0.0869	0.1914	0.0875	9.70	9.43	25.22	9.60	0.1027	0.0981	0.2555	0.0992
43	6 4 保健医療サービス	10.09	10.59	18.91	11.69	0.0926	0.0976	0.1616	0.1074	9.79	10.75	17.04	11.53	0.0922	0.1009	0.1448	0.1097
44	7 交通・通信	7.25	7.80	11.22	9.51	0.0704	0.0755	0.1031	0.0911	9.50	9.62	14.25	12.13	0.0905	0.0905	0.1319	0.1128
45	7 1 交通	39.47	44.10	32.87	41.92	0.2786	0.3030	0.2446	0.2932	22.56	27.97	19.03	29.97	0.1830	0.2119	0.1780	0.2274
46	7 2 自動車等関係費	9.39	10.19	16.94	14.64	0.0914	0.0986	0.1560	0.1386	12.84	12.98	24.02	19.08	0.1213	0.1204	0.2167	0.1722
47	7 3 通信	7.06	6.98	7.44	6.92	0.0766	0.0754	0.0774	0.0744	7.00	6.65	10.55	6.85	0.0742	0.0704	0.1073	0.0719
48	8 教育	46.30	47.14	95.10	42.32	0.4612	0.4563	1.0340	0.3869	55.22	56.02	130.74	53.69	0.4413	0.4373	1.1493	0.4089
49	8 1 授業料等	61.23	62.44		57.79	0.6176	0.6112		0.5080	73.18	74.37		74.32	0.5801	0.5751		0.5305
50	8 2 教科書・学習参考教材	98.96	101.89		101.53	1.0391	1.0386		1.0480	110.14	113.60		114.73	0.7446	0.7464		0.7517
51	8 3 補習教育	11.77	12.48		15.66	0.1126	0.1166		0.1590	15.99	16.47		21.38	0.1529	0.1544		0.2090
52	9 教養娯楽	12.67	13.43	13.58	14.16	0.1143	0.1212	0.1186	0.1261	11.28	12.36	10.68	13.59	0.1020	0.1113	0.0927	0.1202
53	9 1 教養娯楽用耐久財	16.26	17.15	25.45	23.74	0.1805	0.1928	0.2593	0.2542	21.87	21.39	36.73	32.73	0.2327	0.2203	0.3673	0.3196
54	9 2 教養娯楽用品	13.76	14.50	16.02	14.99	0.1327	0.1426	0.1397	0.1457	19.46	20.32	19.67	21.21	0.1764	0.1894	0.1580	0.1945
55	9 3 書籍・他の印刷物	6.41	6.73	6.81	6.50	0.0685	0.0715	0.0723	0.0689	6.10	6.24	8.24	6.19	0.0626	0.0627	0.0857	0.0622
56	9 4 教養娯楽サービス	23.33	25.42	20.87	25.49	0.1879	0.2021	0.1699	0.2018	13.17	15.30	11.60	17.22	0.1213	0.1347	0.1070	0.1409

・二人以上の世帯、総世帯の多くの費目で家計調査より標準偏差等が減少。

中分類指数 - 標準偏差

【名目】 8.1.授業料等 (2020年平均 = 100)



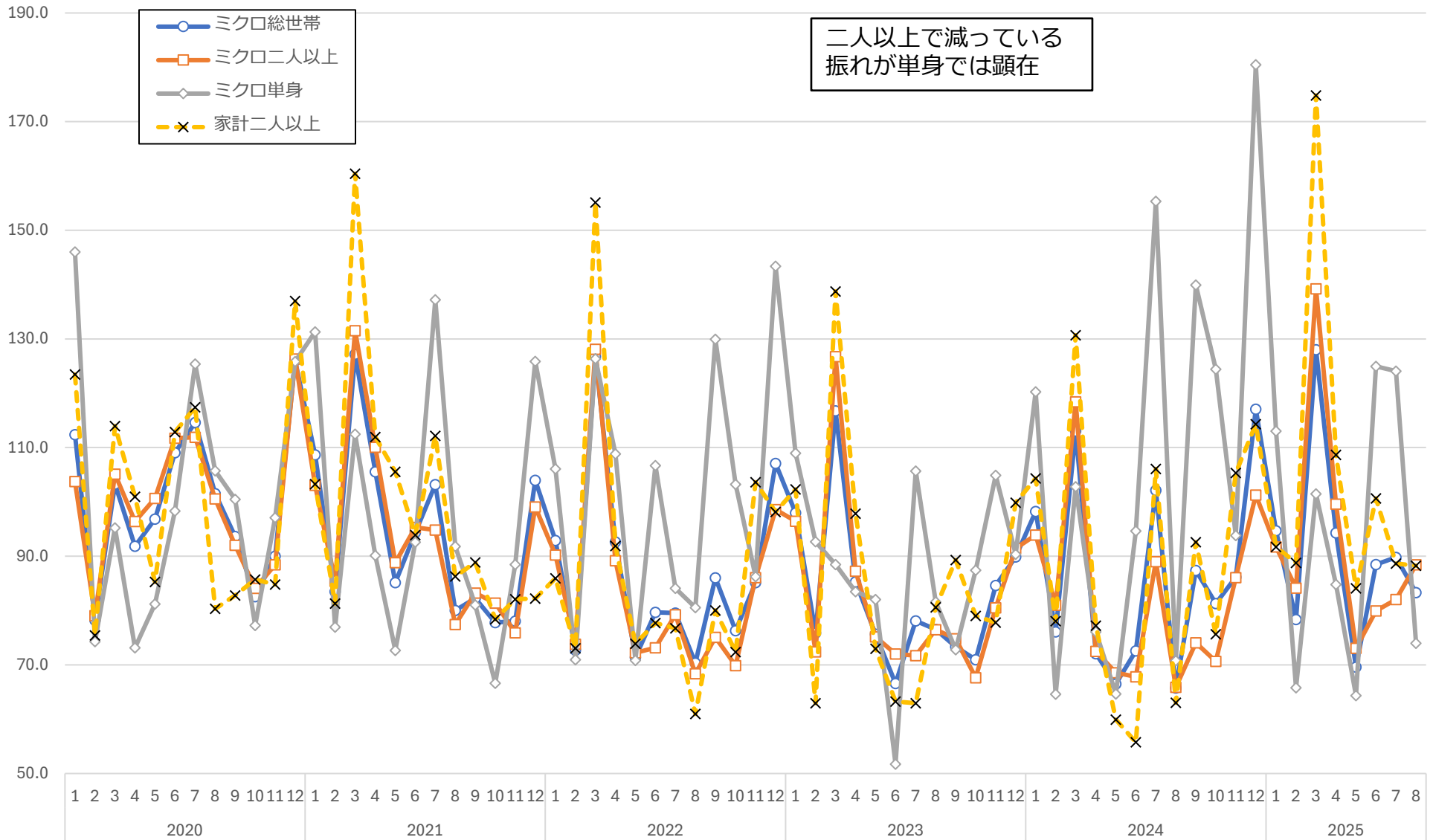
補足（単身世帯について）

- 単身世帯の一部の結果については、変動が大きいいため結果の利用の際には留意が必要。
（「5.衣服及び履物」全般や「9.1.教養娯楽用耐久財」等）
- 単身モニター調査では区分していない中分類については、家計調査の単身世帯の結果を基に推定。
（「1.食料」、「5.衣服及び履物」等）

連番	費目		家計消費単身モニター調査
1		消費支出	
2	1	食料	
3	1	1 穀類	食料品・調味料
4	1	2 魚介類	食料品・調味料
5	1	3 肉類	食料品・調味料
6	1	4 乳卵類	食料品・調味料
7	1	5 野菜・海藻	食料品・調味料
8	1	6 果物	食料品・調味料
9	1	7 油脂・調味料	食料品・調味料
10	1	8 菓子類	菓子類
11	1	9 調理食品	弁当・惣菜
12	1	10 飲料	飲料（お酒以外）
13	1	11 酒類	お酒
14	1	12 外食	外食

中分類指数の留意点 - 単身世帯

【名目】 9.1.教養娯楽用耐久財（2020年平均＝100）



中分類指数の表示形式について

内訳で
表示

分類	202001	202002	202003	202004	202005	202006	202007	202008	202009	202010	202011	202012
消費支出	102.7029	98.8200	105.0072	95.0979	90.0264	99.1162	95.8171	99.3765	96.8441	102.8343	100.9740	113.3834
食料	25.7665	25.5171	26.9486	24.7274	26.0771	25.9188	26.6054	28.3020	26.3245	26.8721	26.7415	32.7849
穀類	1.8353	2.0093	2.3341	2.3369	2.2551	2.1286	2.1524	2.1230	2.1798	2.2841	2.0476	2.5847
魚介類	1.8466	1.7640	1.9969	1.9501	2.0283	1.9300	1.8627	1.9320	1.8288	1.8925	1.9815	3.4107
肉類	2.2092	2.2261	2.5118	2.6669	2.7862	2.4397	2.4231	2.5589	2.3474	2.4296	2.4799	3.2076
乳卵類	1.1930	1.2511	1.4074	1.4710	1.5041	1.3542	1.3341	1.3546	1.3143	1.3034	1.2502	1.3429
野菜・海藻	2.5400	2.6161	2.9663	3.3075	3.3869	3.1202	2.9981	3.2209	2.9433	3.0186	2.8446	3.2394
果物	0.9456	1.0065	1.0673	1.0097	1.0266	1.0548	1.1475	1.4304	1.2539	1.2096	1.1241	1.4171
油脂・調味料	1.0834	1.1527	1.3030	1.3478	1.3212	1.2700	1.2515	1.2035	1.1757	1.2293	1.3034	1.5786
菓子類	2.2575	2.4413	2.5223	2.0601	2.2140	2.1322	2.2402	2.5122	2.1709	2.2233	2.2640	3.0162
調理食品	3.5993	3.5449	3.6625	3.5098	3.6500	3.5231	3.8712	3.9256	3.6391	3.7439	3.7540	5.0224
飲料	1.4626	1.4598	1.6459	1.5931	1.8155	1.9058	1.8417	2.0980	1.7724	1.6084	1.5359	1.7027
酒類	0.9706	1.0343	1.1668	1.3014	1.3796	1.3510	1.3163	1.4513	1.4050	1.1266	1.2680	1.7543
外食	5.8064	4.9954	4.3426	2.1576	2.6838	3.6915	4.1529	4.4748	4.2790	4.7806	4.8652	4.4849
:												

基準年平均
=100で表示

分類	202001	202002	202003	202004	202005	202006	202007	202008	202009	202010	202011	202012
消費支出	102.7029	98.8200	105.0072	95.0979	90.0264	99.1162	95.8171	99.3765	96.8441	102.8343	100.9740	113.3834
食料	95.8498	94.9220	100.2473	91.9843	97.0054	96.4163	98.9703	105.2819	97.9256	99.9625	99.4769	121.9578
穀類	83.8318	91.7825	106.6164	106.7452	103.0091	97.2301	98.3160	96.9725	99.5675	104.3342	93.5309	118.0639
魚介類	90.7255	86.6673	98.1095	95.8131	99.6536	94.8233	91.5174	94.9223	89.8545	92.9823	97.3572	167.5740
肉類	87.5319	88.2024	99.5211	105.6673	110.3927	96.6635	96.0089	101.3889	93.0077	96.2644	98.2599	127.0913
乳卵類	89.0303	93.3601	105.0263	109.7770	112.2425	101.0574	99.5540	101.0874	98.0807	97.2689	93.2999	100.2155
野菜・海藻	84.1937	86.7179	98.3239	109.6361	112.2671	103.4257	99.3790	106.7646	97.5626	100.0601	94.2905	107.3790
果物	82.8719	88.2036	93.5354	88.4861	89.9691	92.4408	100.5620	125.3494	109.8838	105.9997	98.5141	124.1842
油脂・調味料	85.4216	90.8855	102.7346	106.2608	104.1641	100.1297	98.6684	94.8882	92.6962	96.9212	102.7664	124.4633
菓子類	96.5646	104.4235	107.8876	88.1197	94.7033	91.2047	95.8235	107.4568	92.8592	95.0997	96.8404	129.0171
調理食品	95.0387	93.6024	96.7090	92.6768	96.3792	93.0279	102.2200	103.6563	96.0919	98.8581	99.1241	132.6158
飲料	85.8579	85.6923	96.6197	93.5212	106.5773	111.8754	108.1147	123.1576	104.0465	94.4200	90.1626	99.9547
酒類	75.0234	79.9439	90.1900	100.5917	106.6334	104.4223	101.7440	112.1769	108.5955	87.0757	98.0069	135.5964
外食	137.3905	118.1991	102.7545	51.0531	63.5041	87.3480	98.2641	105.8815	101.2481	113.1176	115.1197	106.1199
:												

中分類指数の表示形式について

- 各結果表形式のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
内訳型指数	- 消費支出全体又は各10大費目に対する各分類の内訳がわかる。 - 同月の同大分類内の比較が容易。 (・基準年 = 100指数はユーザーで独自に算出可能。)	時系列データとして基準年との比較が難しい。
基準年 = 100指数	- 時系列データとして基準年との比較が容易。 (・基準年平均値を別途用意すればユーザーで内訳型指数は復元可能。)	- 消費支出全体又は各10大費目に対する各分類の内訳は別データを用いないと分析が難しい。 - 同月の同大分類内の比較が難しい。

3. CTIミクロにおける検討

(2) 「その他の消費支出」の取扱い

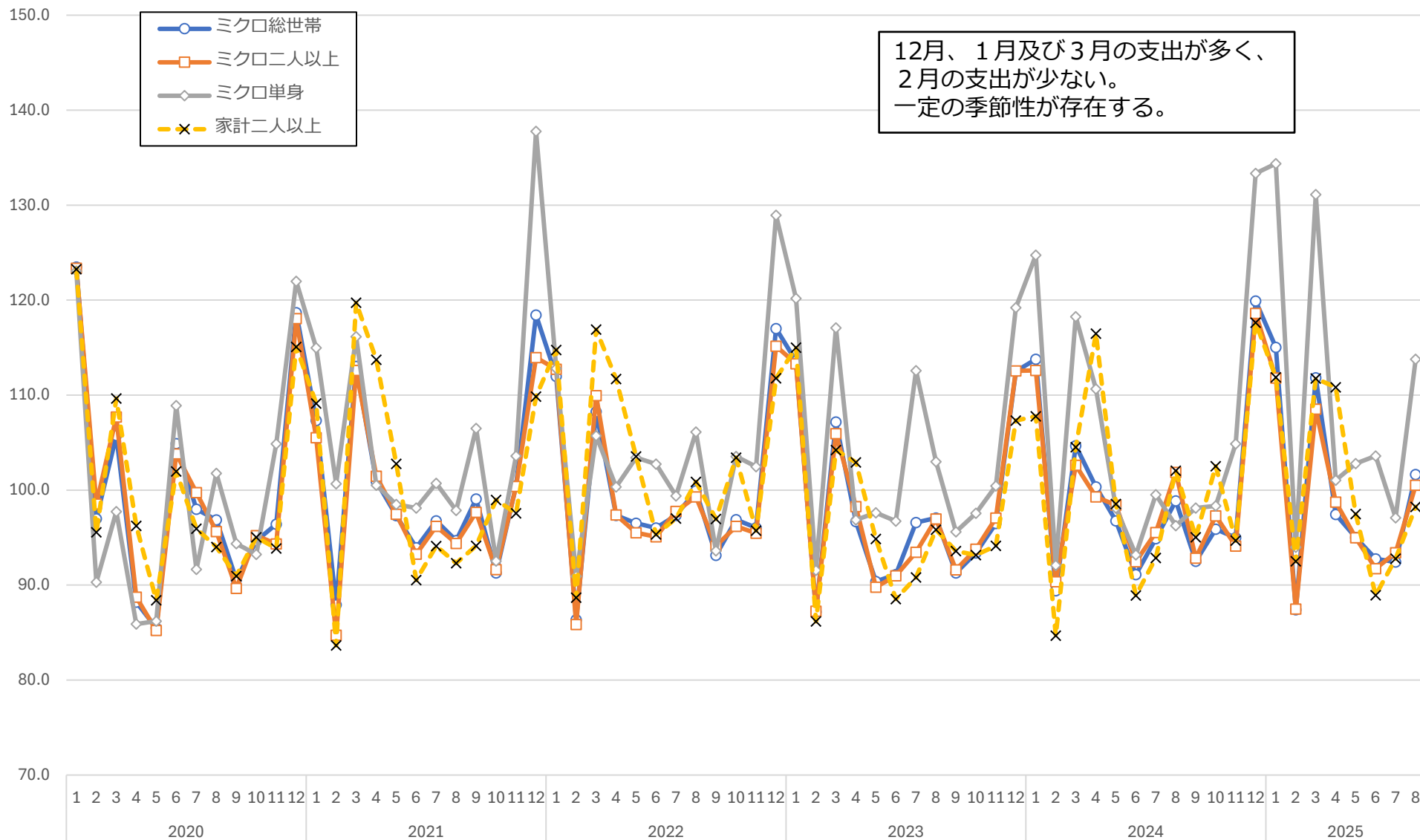
その他の消費支出について

- CTIミクロでは10大費目の「その他の消費支出」について、現在、実質値及び季節調整値を公表していない。
- 「その他の消費支出」は消費支出において一定の割合を占めることから、今回、「その他の消費支出」の取扱いを整理し、実質値及び季節調整値の公表を検討する。
- 「その他の消費支出」の中分類及び内容例示は以下のとおり。

	分類	内容例示
10	その他の消費支出	
10.1	諸雑費	理美容サービス、理美容品（歯ブラシ、石けん類・化粧品等）、身の回り用品（傘、かばん類、腕時計等）、たばこ、他の諸雑費（婚礼関係費、葬儀関係費、寄付金等）
10.2	こづかい（使途不明）	世帯主こづかい、他のこづかい
10.3	交際費	食料・教養娯楽等の交際費、贈与金、他の交際費
10.4	仕送り金	仕送り金

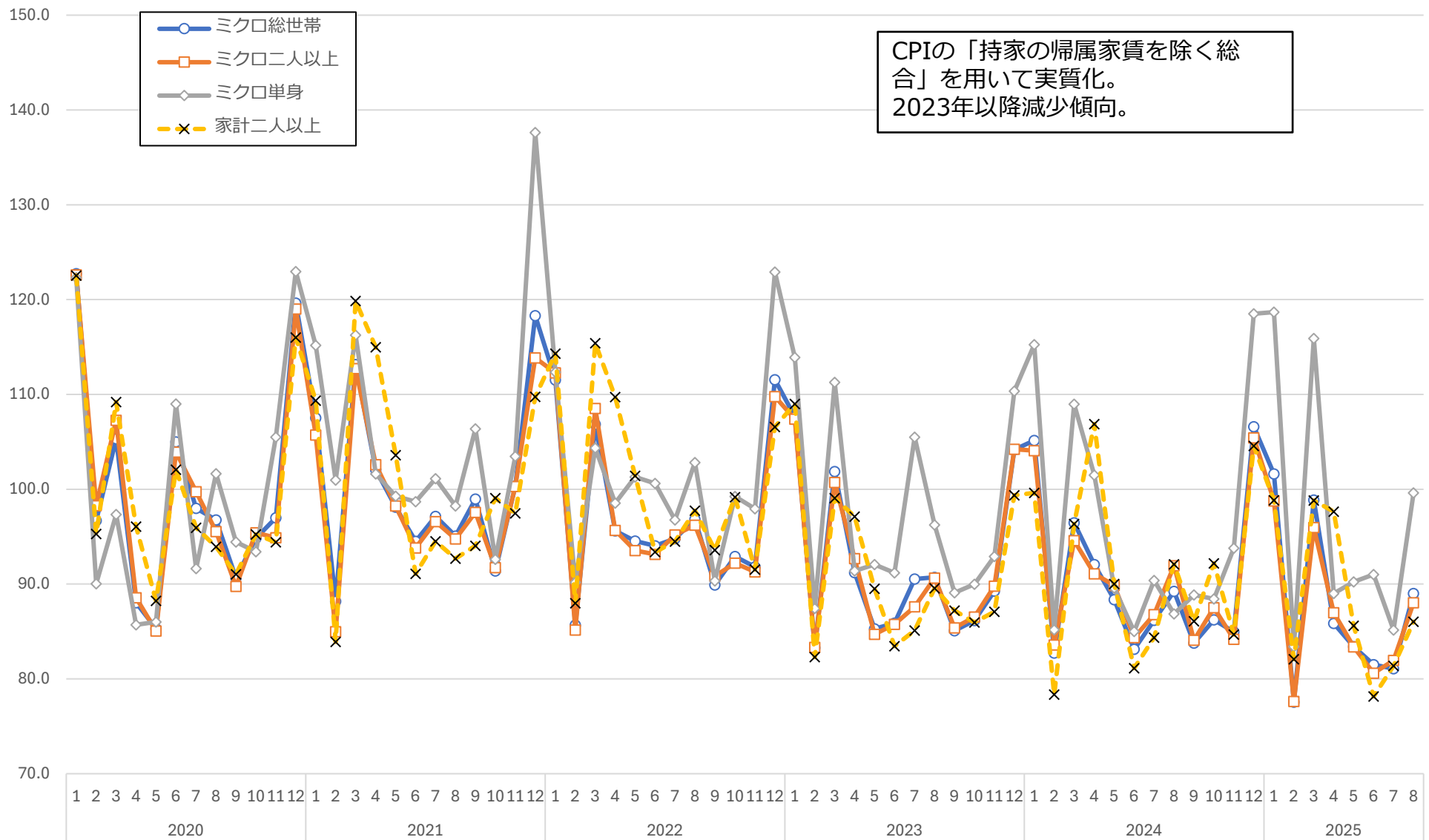
原系列：（名目）その他の消費支出

原系列：【名目】 10.その他の消費支出（2020年平均＝100）



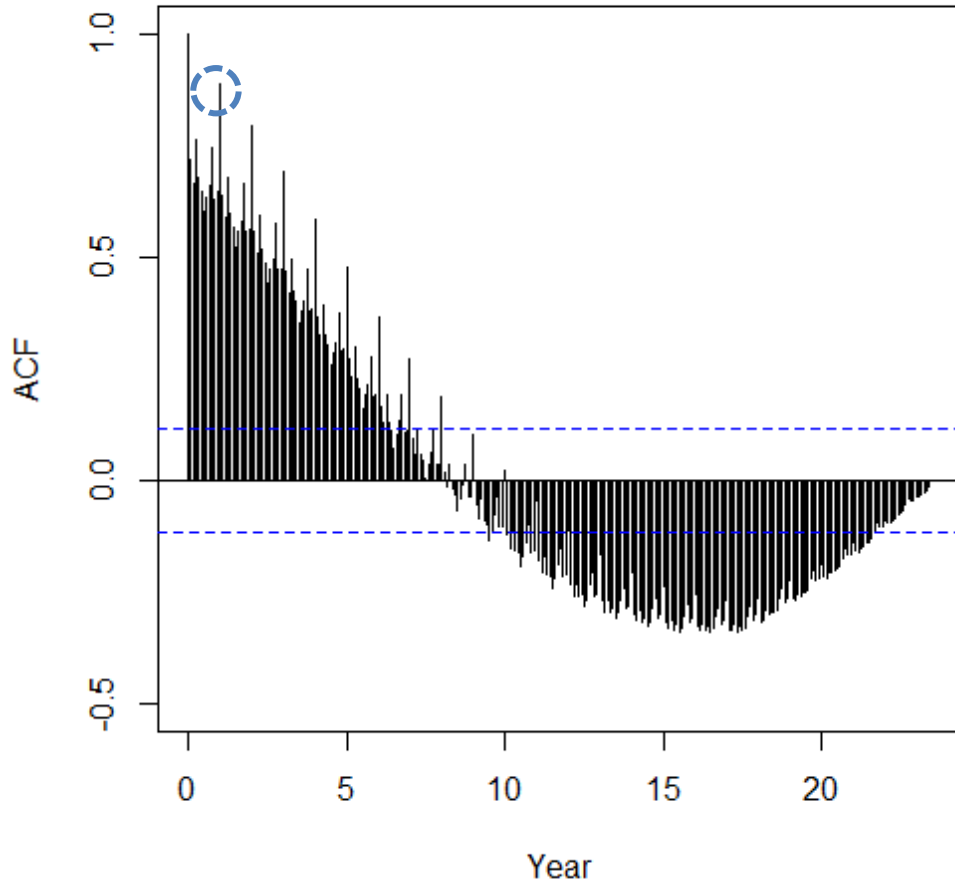
原系列：（実質）その他の消費支出

原系列：【実質】 10.その他の消費支出（2020年平均＝100）

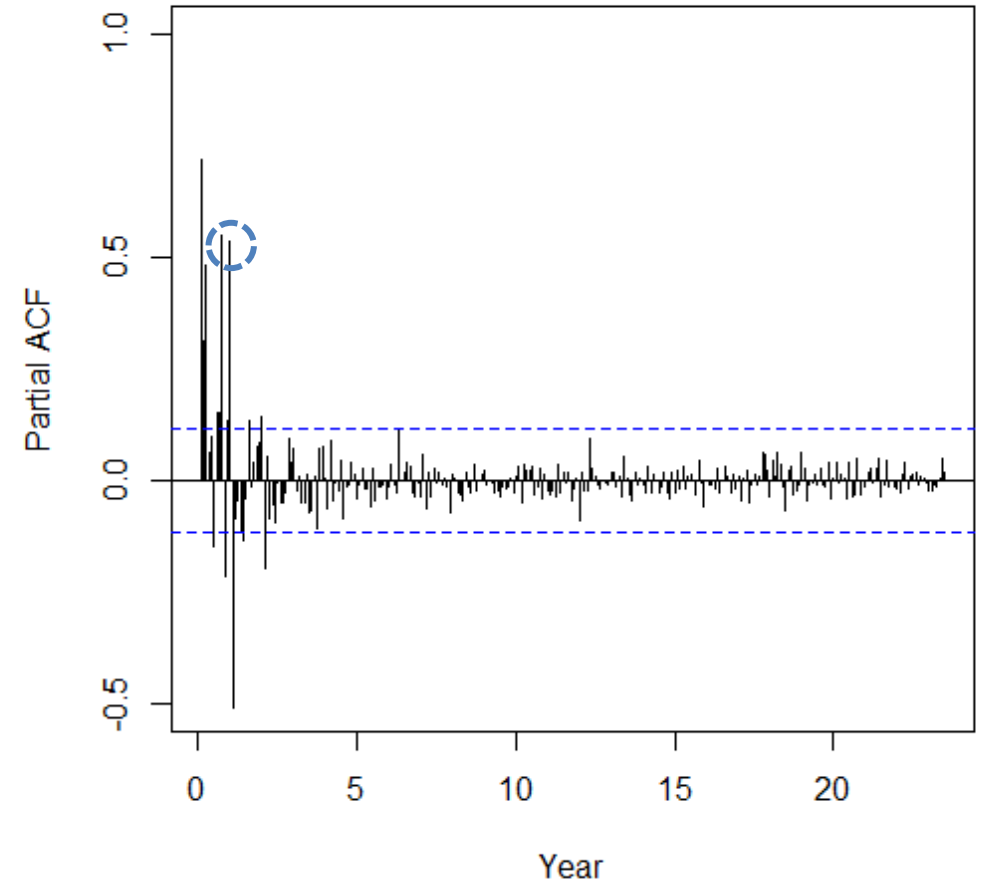


季節性の確認：（名目）その他の消費支出

【(名目)その他の消費支出】自己相関係数 (ACF)



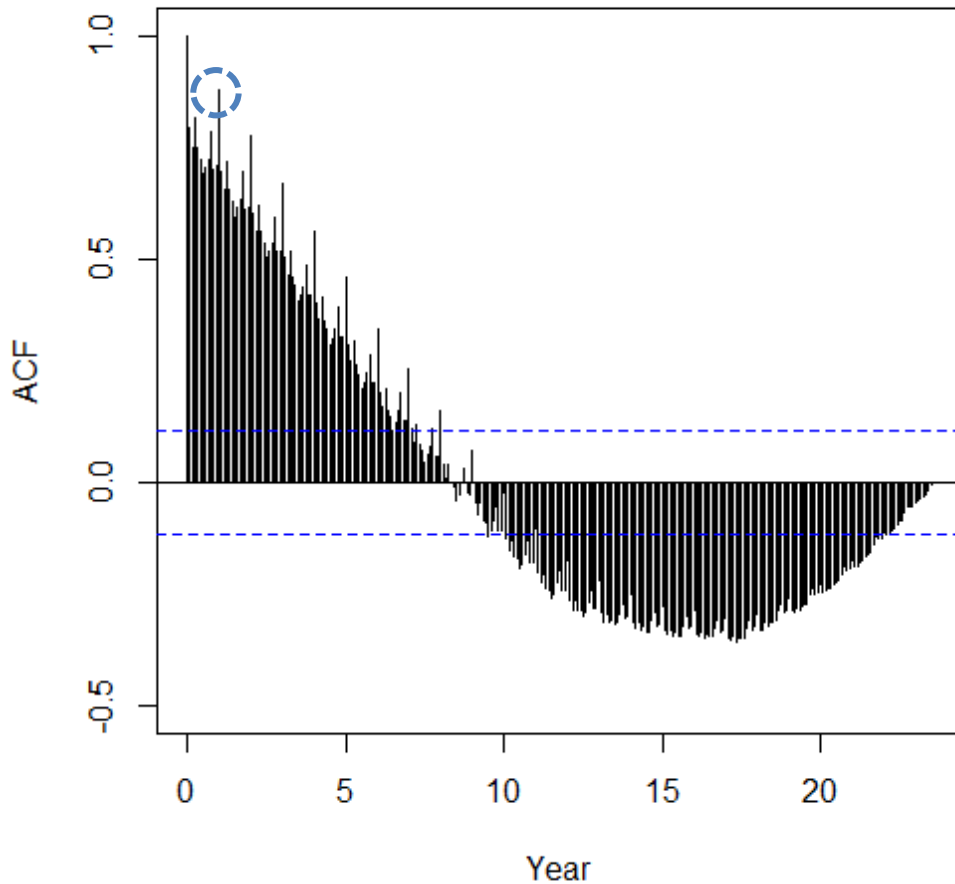
【(名目)その他の消費支出】偏自己相関係数 (PACF)



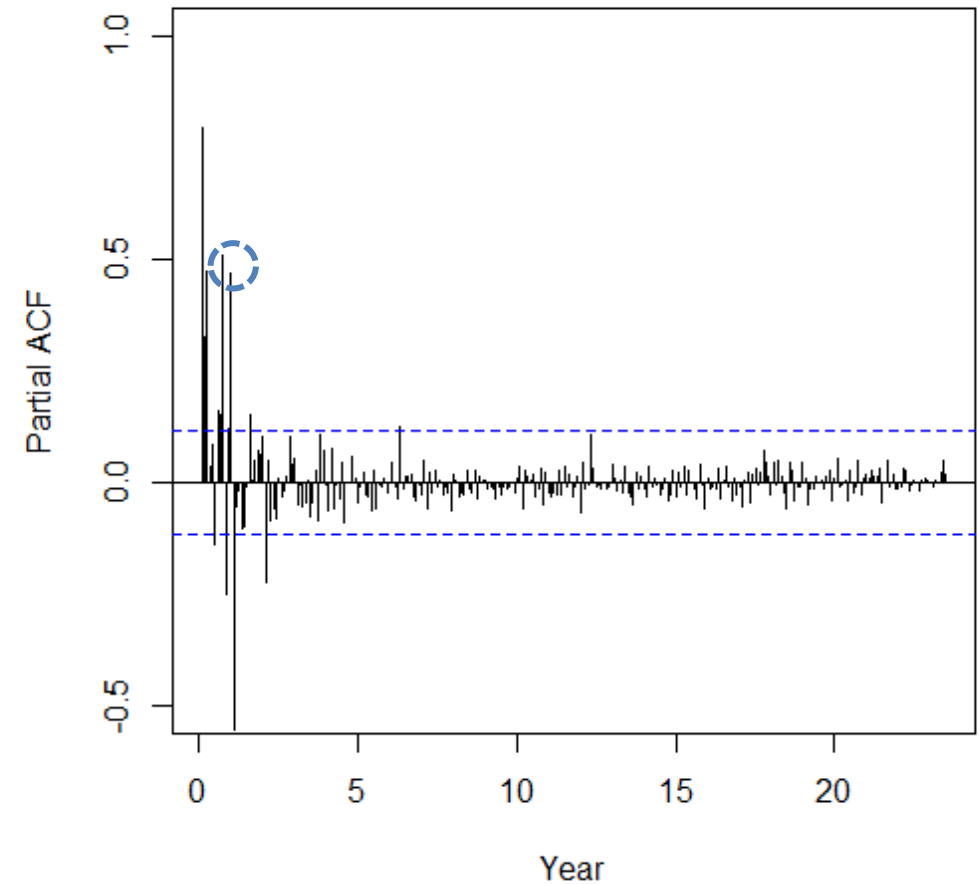
※ 総世帯の結果を用いて試算。青線は95%信頼区間となる。

季節性の確認：（実質）その他の消費支出

【(実質)その他の消費支出】自己相関係数 (ACF)



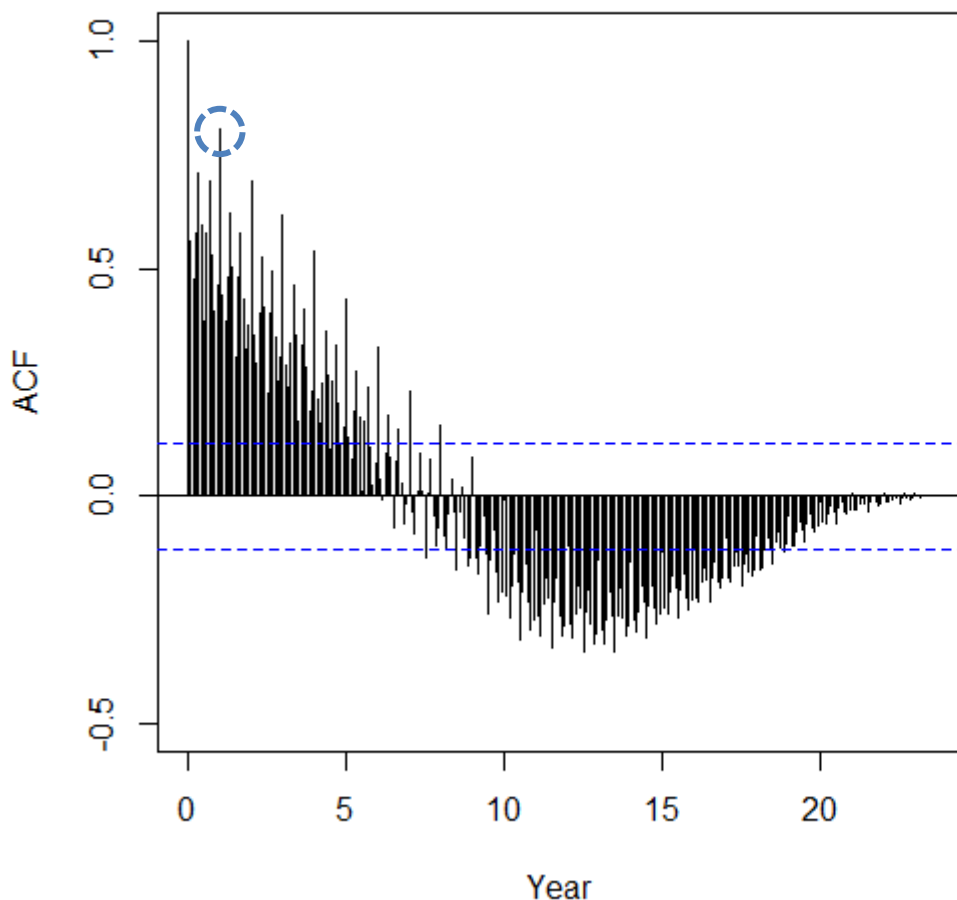
【(実質)その他の消費支出】偏自己相関係数 (PACF)



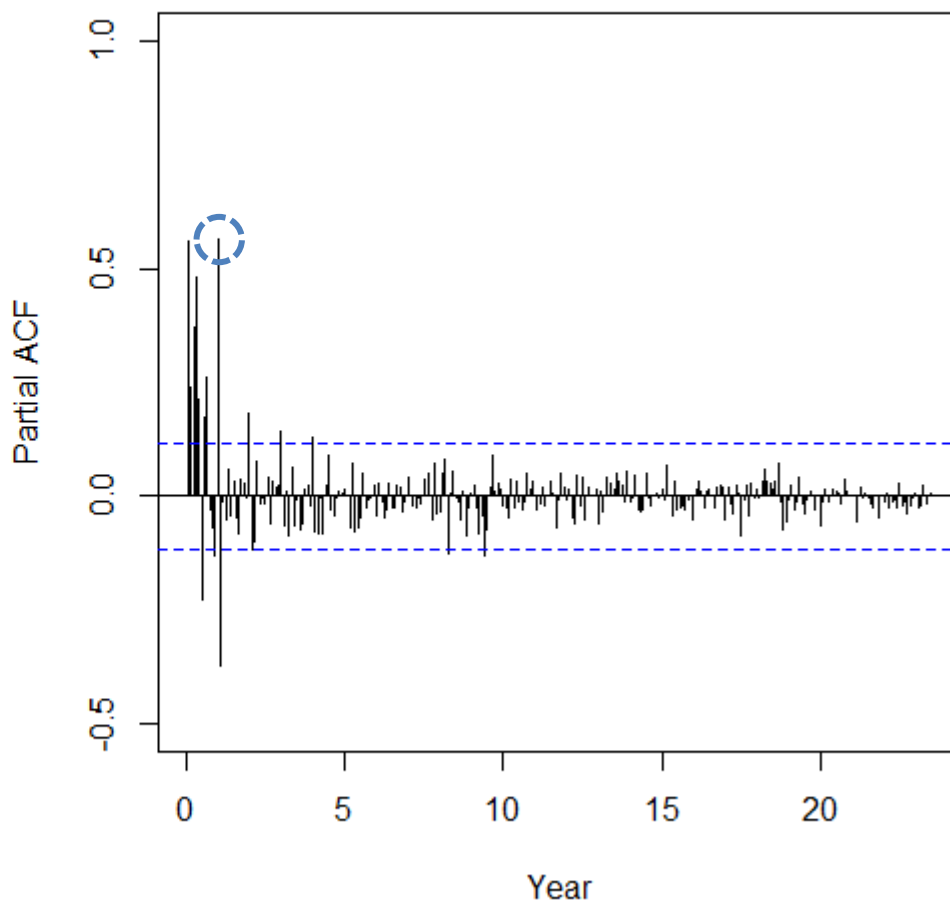
※ 総世帯の結果を用いて試算。青線は95%信頼区間となる。

(参考掲載) 季節性の確認：(名目) 教養娯楽

【(名目)教養娯楽】自己相関係数 (ACF)



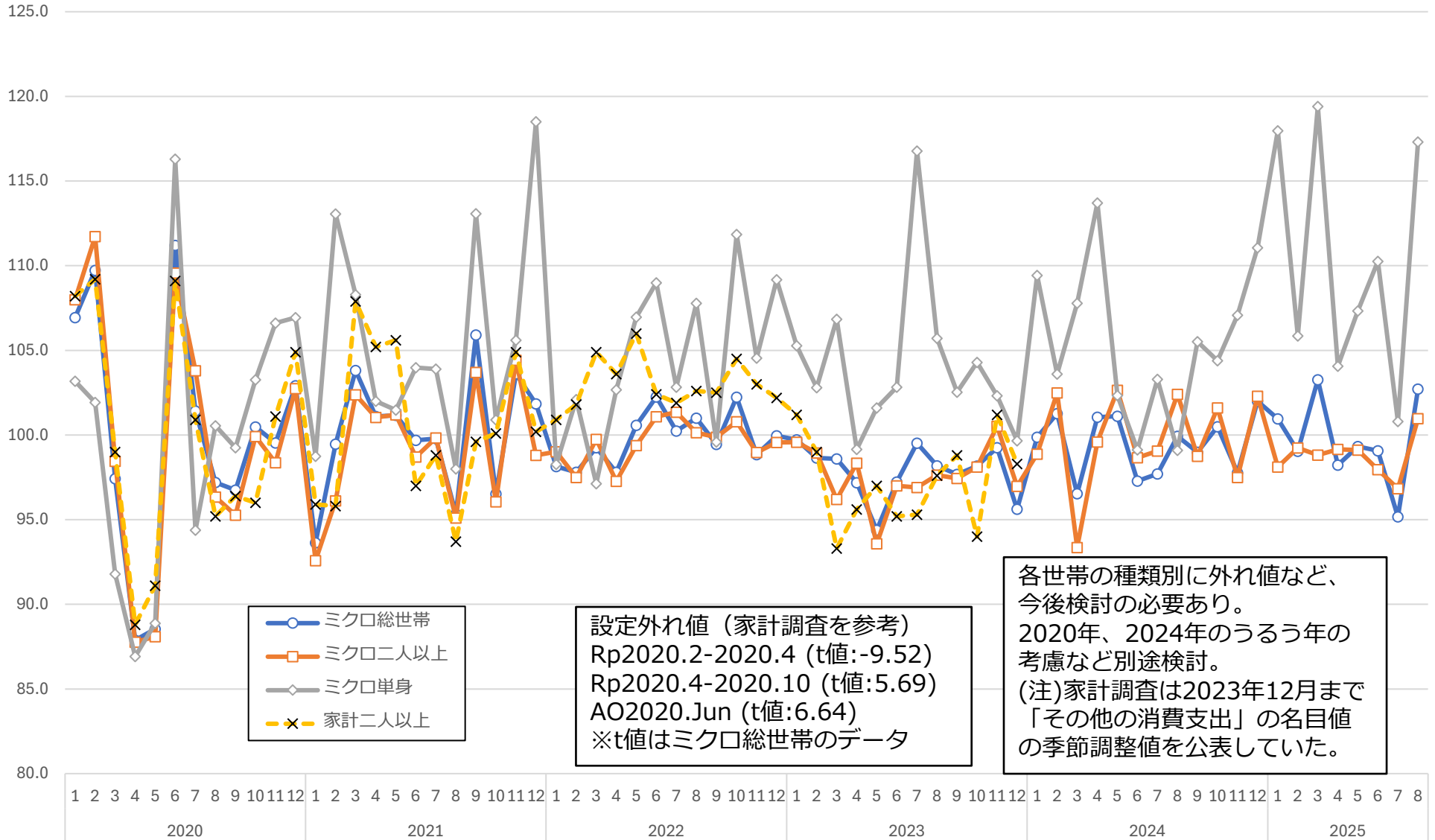
【(名目)教養娯楽】偏自己相関係数 (PACF)



※ 総世帯の結果を用いて試算。青線は95%信頼区間となる。

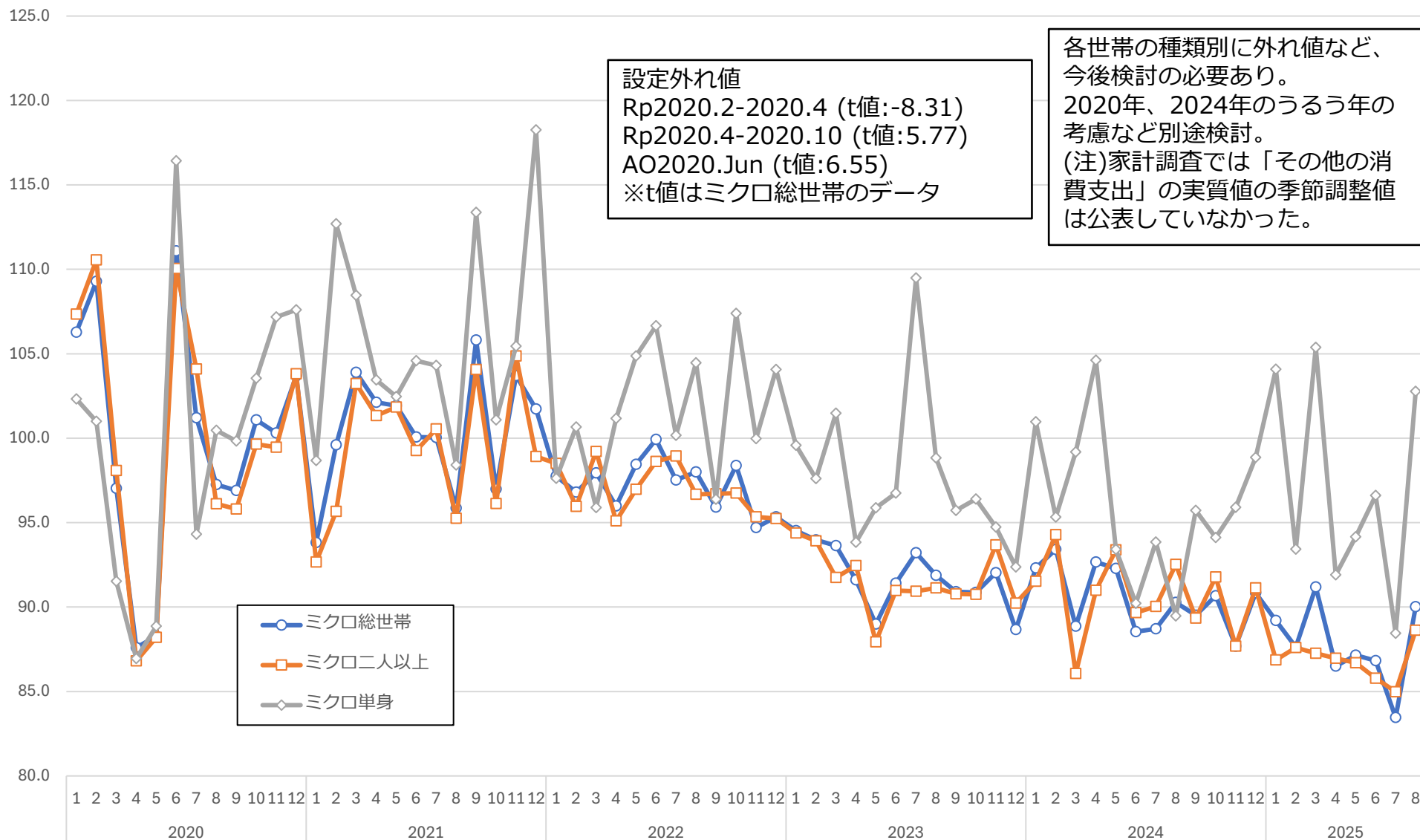
季節調整値：（名目） その他の消費支出

季節調整値：【名目】 10.その他の消費支出（2020年平均＝100）



季節調整値：（実質）その他の消費支出

季節調整値：【実質】 10.その他の消費支出（2020年平均＝100）



4. CTIマクロにおける検討

※これまでの研究会資料と同内容

(1) うるう年変動の除去に係る検討

- 総消費動向指数では、加法的外れ値AOや水準変化LSなどの外れ値は対応しているが、他の公的統計のように、X-12-ARIMAで設定できる曜日効果やうるう年等のカレンダー要因は調整されていない。
- 実際の公表値における「うるう年変動」の影響を確認し、説明変数系列の推定（スライド6）の季節調整モデル※¹に「うるう年変動成分」を追加して、その成分を除去した場合の試算を行う。

○原系列の分解（うるう年変動成分を追加）

$$Y_n^{Original} = \underbrace{T_n}_{\text{トレンド成分}} + \underbrace{C_n}_{\text{サイクル成分}} + \underbrace{S_n}_{\text{季節変動成分}} + \sum_{k=1}^K \underbrace{D_n^k}_{\text{外れ値項※2}} + \underbrace{LY_n}_{\text{うるう年変動成分※3}} + \underbrace{\varepsilon_n^{Original}}_{\text{不規則変動成分 (観測ノイズ)}}$$

○説明変数系列（変更なし）

$$X_n^i := T_n + C_n + \sum_{k=1}^K D_n^k$$

説明変数系列にうるう年変動成分を組み込まないことで除去する

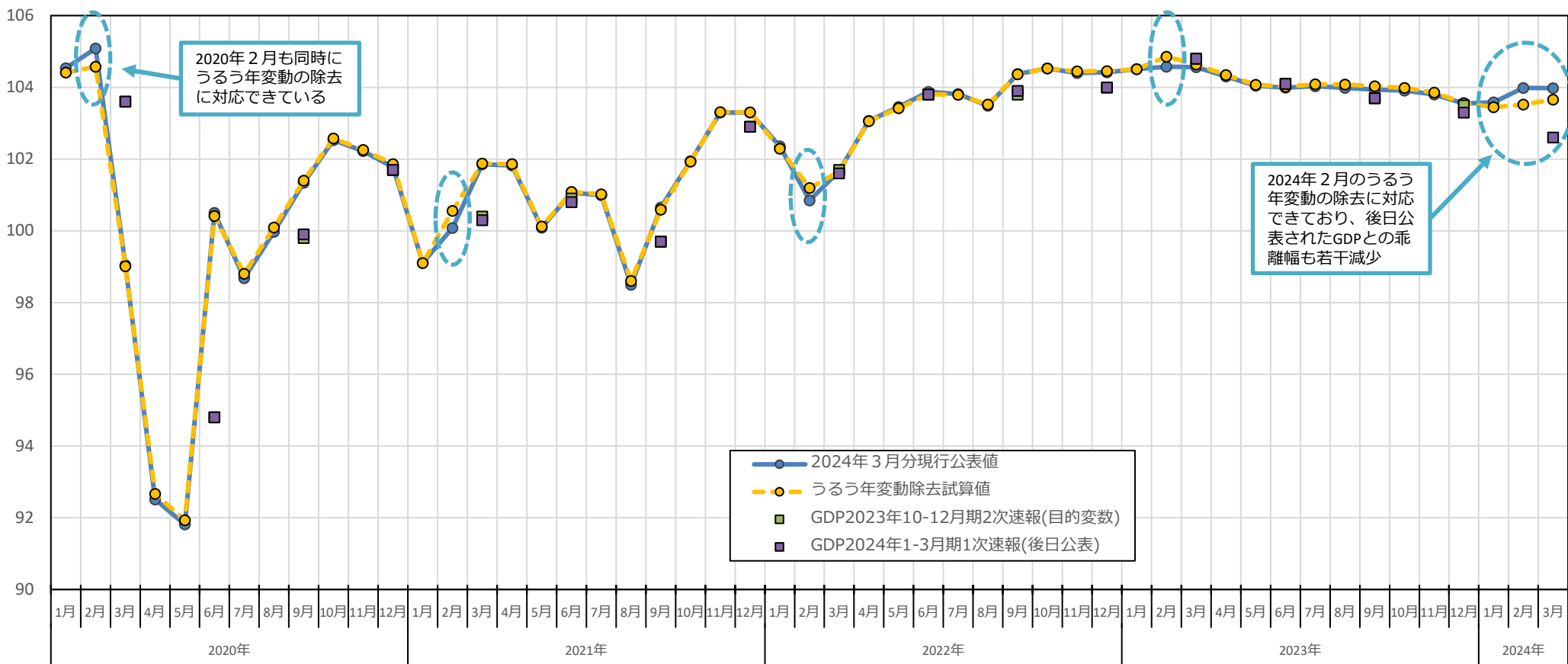
- ※¹ DECOMP法に基づく季節調整モデルの一種である。状態空間モデルにより、原系列を時系列データの各成分に分解している。
- ※² 外れ値項は、消費税増税前後などの消費支出の急激な変動を説明する成分であり、説明変数系列の要素として組み込んでいる。
- ※³ 内部処理としては、うるう年2月のみ1とするようなダミー変数を設定し、外れ値項と同様に回帰係数を推定する。

【実質】 うるう年変動を除去した試算値

- ・ うるう年変動を除去することで、うるう年の2月値が上振れする現象が解消された。
- ・ 同時にうるう年以外の2月値が下振れする現象も解消された。
- ・ また、後日公表されたGDPとの乖離が若干減少し、精度が向上した。

【実質】 総消費動向指数2024年3月分公表値、うるう年除去試算値及びGDPの比較

(2020年=100)



※ うるう年変動の除去を行うのはステップ1の説明変数系列推定時であり、ステップ2は通常どおりの推定となる。

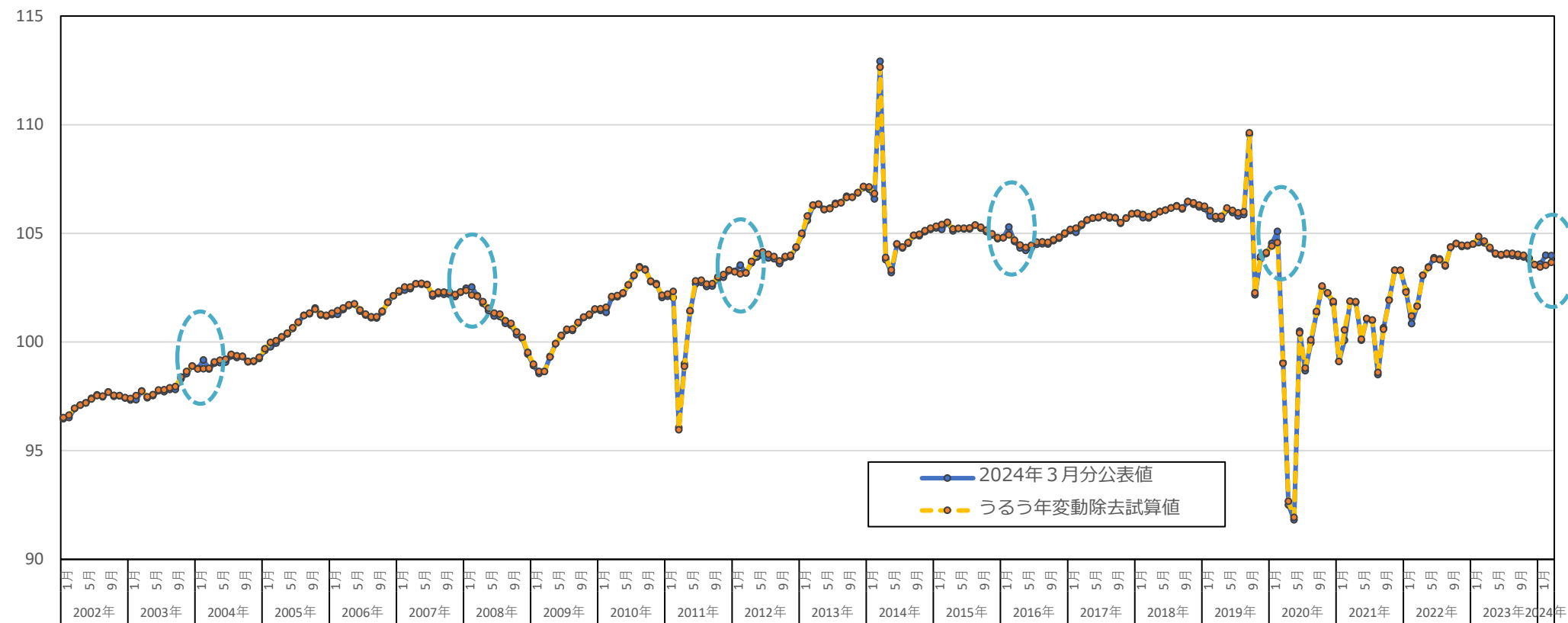
※ 当該試算とは別に、X-12-ARIMAを用いて原系列段階でうるう年変動を除去する手法も確認し、結果は同程度の精度であった。

【実質】うるう年変動を除去した試算値 - 長期時系列

- 長期時系列で確認すると、過去分についても、うるう年2月値が上振れする現象が解消できている。

【実質】総消費動向指数2024年3月分公表値、うるう年除去試算値- 長期時系列

(2020年=100)



(2) 帰属家賃を除く系列の公表に係る検討

- GDP統計では、個人消費額を示す「家計最終消費支出」のほか、「持ち家の帰属家賃を除く家計最終消費支出」（以下「**除く帰属家賃**」という。）が名目及び実質でそれぞれ公表されている。

持ち家の帰属家賃の定義

帰属家賃とは、実際には家賃の受払を伴わない住宅等について、通常の借家や借間と同様のサービスが生産され消費されるものとみなして、それを市場価格で評価した帰属計算上の家賃をいう。

「持ち家の帰属家賃」は、実際には家賃の受払を伴わない自己所有住宅（持ち家住宅）について計算した帰属家賃のことである。（以下略）

内閣府経済社会総合研究所「用語の解説（国民経済計算）」から引用

- 持ち家の帰属家賃は、2023年の実質額で見ると、GDP統計の約9%、家計最終消費支出の約17%を占めている。
- その推計方法は、内閣府等で多くの検討※がなされている。
- GDP統計における帰属家賃の動向を確認し、総消費動向指数の推定における目的変数を「除く帰属家賃」とすると、どのような系列となるか試算した。

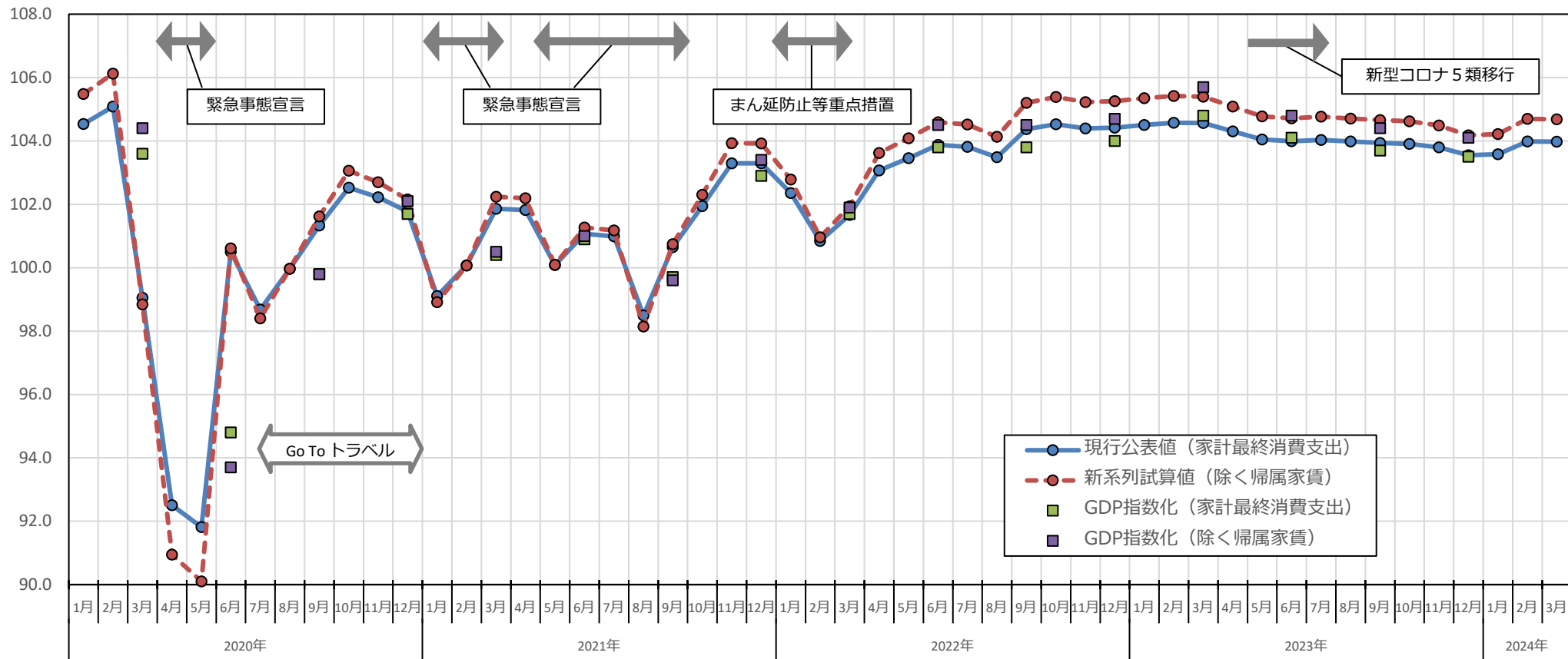
※ 参考文献：内閣府経済社会総合研究所(2023)、「国民経済計算における帰属家賃の測定～用途、アプローチ、および問題点～」『経済分析』第207号。

【実質】 総消費動向指数の新系列試算値

- 新系列試算値は、現行公表値より増減幅が大きくなっている。2020年4月及び5月の緊急事態宣言下の落ち込みが顕著になっていたり、消費が増加するタイミングでの水準の上昇がある。

現行公表値、新系列試算値及びGDPの比較（2024年3月分推定結果）

(2020年=100)



※ うるう年成分の除去の検討は、本試算では含めていない。

CTIミクロ・マクロ（共通）における検討 年度結果について

年度結果について

- CTIミクロ・マクロともに月次・四半期・年次結果を公表しているものの、年度の結果は公表していない。
- 月例経済報告で内閣府が独自計算する形で年度結果が算出されているなど、一定のニーズがあると考えられる。
- 2025年基準改定時に年度の結果を追加予定。

2. 個人消費

個人消費は、消費者マインドの改善に遅れがみられるものの、雇用・所得環境の改善の動きが続く中で、持ち直しの動きがみられる。

(金額等)

(前年同期比 (%))、[]内は暦年前年比 (%))、()内は季調済前期比 (%))、< >は季調済前月差 (ポイント))

	[2024年] 2024年度	[2023年] 2023年度	[2024年] 2024年度	2024年 10-12月	2025年 1-3月	4-6月	2025年 3月	4月	5月	6月
総消費動向指数 (CTIマクロ、世帯全体の消費支出総額)										
名 目	—	[3.9] 2.7	[2.3] 2.9	(0.9)	(1.0)	—	(0.4)	(0.2)	(0.2)	—
実 質	—	[0.7] ▲0.3	[▲0.0] 0.6	(0.1)	(0.3)	—	(0.1)	(0.1)	(0.1)	—

今後のスケジュールについて

- 2026年秋頃 2025年基準による公表開始
- 随時、公表内容の拡充に関する検討
CTIに関する解説資料等の充実